

卷中手抄

1215

911.3

八

俳諧季寄 芳道堂子火

中掌手挑燈

紅

松森堂持

俳諧手挑灯

目錄



四季之詞

但春三月のうしひ用奉有三月は通ふ季六
右の下に如此黒星と付置之四季共同斬

并年中諸國祭礼

雜之詞

天象

贊物

降物

神祇 非神

釈教 非釈 并兩部

戀シラカク 非恋

迷懷シラカク 非迷

居所キヨ 非居

夜分ヤ 非夜

衣服イ 非衣

生類ナマ

旅躰リョ

無常ムジョウ 哀傷

人倫ジン 非人

山類サン 非山

水邊スイ 非水

食類シヨク

植物シヨク 同高低

器財キ 器財付

支躰シ 支体付

書躰シヨ

風躰フウ

同字ドウジ 字去之事

同付字之辨ドウフジ

月之辨ツキ

以呂波寄イロハ 手介於葉大原

名所ナトコロ 名所付

火躰カ

病躰ヤマト

同別驗ドウベツケン

賦物取樣フツモノ

花之辨ハナ

一發句切字 并發句 歌仙

以上

俳諧手挑灯

凡例

哥一首、三十一字

素色く「夏来にき」句妙の私原をてふ河津の香文

如げ洞つゞき云哉也 篇序題曲流

六より七の「夏来」は十七字と 七より七の「夏来」は十七字と

上中合く三をト一文等

上の句篇序題にして下の句曲流なるをの字

又上の句曲流下の句篇序題もあり

調の姿 六義也 風賦此與雅頌ト云

連歌俳諧ハ哥一首の上の句下の句と二句に分てせり

連句ハ上の句に下の句と附下の句に上の句と略々に附

哥仙ハ三十六句百員ハ百句する也

發句

トハ

聯

トハ

一発の發句初發の上の句にまゝ發終末その句の
季とハ切字とハ季すうらん句はさる一 四季の類是切
字ハさるる句の發句のまゝまに發す味ハまゝ一
トモの句に發句と同一季と格ハ發句のかと下の句
うけし文字を季にす

但し作聯連との中分あり是連くハははははは
りあるとなしハ生の發句は正月の季とハつら正月
の發句は生の發句とハ一月ハ正月の季とハ二月三月の季
とす

新

三トハ

上の句よりと振へまゝくをの發句一句のたけまゝ發句
の併にありさるる句に三聯にけりる季とす

三つぎにけりる季ハ正月の二月をに物トハ季なり
四季の類の節にハ此は是と付是ハさるるにけりる季と

名残表 十句内 十句ノ月

同 裏六句内 五句ノ花 是と小原公の花ノ月

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韻法

初表

八句内 七句ノ月

同裏

十四句内 九句ノ月 十三句ノ花

二表

十四句内 十三句ノ月

同裏

一折 十四句内 九句ノ月 十三句ノ花

三表

十四句 右同断

同裏

一折 十四句 右同断

名残表

一折 十四句 右同断

同裏

一折 八句内 七句ノ花 句ノ花ノ此裏月也

右四折合テ百員也
初ノ二折と五十員ト云

四十四法

百員の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員のナリ

七十二候

百員の初折ト二折ト名残の折ト三折合テ

右三折ニ月五ツ花ニツ法百員のナリ

源氏法

初表

六句 内 五句 月

十句 花

二表

十二句 内 七句 月

十句 花

同裏

十二句 内 七句 月

名残表

十二句 内 七句 月

同裏

十二句 内 七句 月

右三折

五句 内 五句 花

哥仙

二折 共四句 哥仙の法のごとく

米字

八十八句

初表

八句 内 七句 月

十句 花

二表

十二句 内 十句 月

十句 花

三表

十二句 右同断

同裏

十二句 右同断

名残表

十二句 右同断

同裏

八句 内 七句 花

右四折 月七 花四

首尾

哥仙

初表 六句 五句 月 合テ 十二句 花

百員

初表 六句 五句 月 合テ 十六句 花

裏白 六句カ 表斗リスラ云

面白 十二句カ 裏斗リスラ云

三物 癸句股第三マテ三句スラ云

月 癸句ウ綴ウオウにウケル時ハ初表の月也云

花 癸句ウ綴ウオウにウケル時ハ初裏の也と云云
但ハ西もハオと云ハオ云
田ウウウ初表の内ウ云云

發句 表ウハ振も表ウ云

同 祚祇多ハ振も祚祇ト 有り無

同 尺数多ハ振も尺数ト 有り無

同 速慢多ハ表ウ斗フと云云云

同 沖濁多の時ハオ云云云

會席トハ 文彦に祝儀御茶と体家園と振祇ト連中ト云

連句トハ 多弘英一頁本のり云

一順トハ

後句より去序の人数有は第一百ヲ其ノ中ノ一ヲ云フ

再遍トハ

右の人数の句又一海ノ思ハシム

聯トハ

妻及秋冬ニ句ト云及冬ニ句ト云其ノ句等皆死
湊ルルヲ云フ

吟声トハ

句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

回嶋トハ

吾人ト云ニ句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

獨吟トハ

か昔人ト云其ノ句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

両吟トハ

日ト云ニ句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

前句トハ

我ニ有すハの句ト云

遅吟トハ

句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

秀逸トハ

申されて其ノ句ト云

巻頭トハ

其ノ句ト云

添削トハ

一卷の長と字面ハも其ノ句ト云

彫点トハ

不連点ハ其ノ句ト云

批言トハ

句の何れを云ふ事ト云其ノ句ト云其ノ句ト云其ノ句ト云

加筆 カヒ トハ 句のゆきふとあへて去語なる

褒美 ホビ トハ 句を褒めたることなり

筆句 ヒツク トハ 連中のかげに拙筆よりするをほく、まきまあり
拙筆ゆゑの力を思へりなり

打越嫌 ウチコシキライ トハ 付てはらり、かへば七句をあらせり

二句去 フタク トハ 付句より二句をあらせり

三句去 サンク トハ 付句より三句をあらせり

字去 ジキ トハ 付句より一文字をあらせり

五句去 イツク トハ 付句より五句をあらせり

引割 ヒキワ 夜季や竹田の船ち着渡月松枕煙を白く引

此分折面うかりとも白くを

七句去 シツク トハ 付句より七句をあらせり

面去 オモ トハ 百負八面の二面とてつらと云傳、表も一面裏も下面とて

折去 オリ トハ 百負四折の二折とてつらなり

一ツ二ツ四ツ八ツトハ 一、二、四、八、十六、三十二、六十四、百二十

訓に四ツ有りの八音も四ツ有る百千万のこゝし刺音

名所イネ 國名クニ 在名等イミ 或ハ官名ウツ 苗字ナノ 人の名ナ 名ナ 呼ヨ と公

名所ナ ありは水辺山類ミヅノヘ ありはれハの躰ミ と道ミチ

時々の草木クサキ 兼タガヒ 句段食物クダ にまればその季キ ハ持モチ ちかゞ植物

とのくくく魚鳥獸ウサトリ あり喰物クダ にまれば其季キ ハ持モチ ちかゞ生れ

のくくく紋所イテ 或ハゆはまきも季キ ハ持モチ ちかゞ躰ミ ハのく

くくく

秋奠アキノシ 秋アキ 二度ニヒ のちノチ も春ハル 後ノチ もノチ 六ム 秋

親父オヤジ 入イ 秋アキ 二度ニヒ あれも春ハル 後ノチ もノチ 六ム 秋

雛ヒナ 三月ミヅ 二度ニヒ 立タ ちれも春ハル 後ノチ もノチ 六ム 秋

峯ミネ 入イ 春ハル 逆サカ 秋アキ 二度ニヒ あれも峯ミネ 入イ ちチ 六ム 秋

古代コノコト より初表ハジメ の内ウチ 嫌イヤ ひ来キ る物モノ の中ナカ に古人コノコト の名ナ の事コト 聖賢セイケン

公家クダ 武家ブケ 或ハ歌人ウタヒト 儒者ニヒヤ 医者イシヤ 町人チヨウジン 百姓ヒヤクシヤウ 能役者ノビヤクシヤ 職人シヨクジン 等ト

の神祇カミ 祝教イハヒ 憲ノミ 無常ムジョウ 迷懷メイカ 衰傷スイキヤウ 等ト なるナ るル 古人コノコト の名ナ

表の内苦一かゝり尤在（？）一（？）同名所の事神祇叙
教憲無常述懷等（？）なる名所並國名町那等表乃
内苦かゝり旅体右同断

野々口立甫夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌と引も同断七十二候に蜻蛉鳴夏詩小鳴蛙
秋ふわれも連俳とも（？）に春之和哥に牡丹春花信棟春これ
らと連俳もて夏（？）此（？）と（？）と（？）と（？）と詩歌候と引或は

詩書等（？）異様ある季と見出一俳諧と錯乱す（？）は
當時の四季正月元朝より極月（？）至細々季々此書に記置
あり不通成（？）季不用

餘（？）與（？）の事古来（？）ありき（？）ありき（？）といつものころう（？）百員乃（？）奉
句（？）に發句ありて常の折（？）ありて句を繼て表八句裏十
四句月花并太嫌等常の百員の法式（？）少も違へ（？）と
百員結ひ次て續二百員或續三百員と呼也

百員に一句の物も餘真まハ又出い出

但レ余真まううりり二句去三句去の物ものは式しきに各五句去句
去面去折去物ものと多おほく三句去とすすと

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞たいこう帝てい句く芒まう神しん蒼天そうてん

東君とうきん

詔みことことば光ひかり

夏なつ正ただ

正月

大簇たいさく律りつ

立春りつしゅん節せつ

雨水うづみづ中なか

初陽しゆやう

青陽せいやう

孟春もうしゅん

陝月せんげつ

睦月むつき

端月たんげつ

初月しづき

二月にがつ

左所月さしづき

元日

元朝

元且

元三

三朝の事

雞旦

改旦

樹氣

聖節

履端

年始

年頭

改年

甫年

新正

三朝

三始

三元

復新

新春

三代の事

若くは

徳代の事

四方の事

花の事

若の事

若くは

けの事

若の事

あつち

日の始

冬の初

あきき年

あつちの事 年まゝ

四方拜

天子東南西北と

朝拜

朝賀 奏賀 奏瑞 群臣 天子とわたりおしやう

腹赤贄

元後

天子の御名に供ひし

氷乃様

元初をさるつとき時ハ

屠蘇

酒を飲むに供ひし

井開

元初をさるつとき時ハ

國柶笛

天子の御名に供ひし

祇園削掛

元初をさるつとき時ハ

年徳神

年神

年棚

元日

元朝

元旦

元三
明の元日

雞旦

改旦

燧燗

聖節

履端

年始

年頭

改年

甫年

新正

三朝

三始

三元

復新

新春

子代の妻

君の妻

氏代の妻

四方の妻

花の妻

君の妻

子代の妻

けさの妻

その妻

あつち

日の始

年の初

いひなき年

あつちの年

年まうへる

四方拜ホウハ

天子東南西北

朝拜

朝賀 奏賀 奏端 群臣
天子と元朝は朝し

腹赤贄ハラカニエ

元後

より朝の多くなり
天子の御若名に供ひらる

屠蘇

酒を飲む
天子へさし給はる

氷乃様

元朝をさるる時ハ
氷乃様をさるる時ハ

國柷笛

天子へさし給はる
天子へさし給はる

祇園削掛

元朝をさるる時ハ

空刺お

年徳神

年神

年棚

福鑑

惠方柵

掛鯛

福葉

押鮎

注連飾

年男

庭寛

惠方

初鶏

齒朶

数の子

楪

俵子

初霞

齒固

かんを後

大服

にー肴

初空

穂長

田作

鏡餅

喰積

太箸

裏白

開豆

初曆

曆開

巾

御慶

門松

但作このころころ初より柵大飾

元々

蓬菜おかし

雑煮ゾウキ大こん芋既これに後を

かさうり元々の

い孫おかしはむ元々の

福寿艸元々の

い孫おかしはむ元々の

弓始おかし

宝船神々元回

書吉書筆始初硯

弓始おかし

万歳

福引

初夢

弓始おかし

正
謡初

舞初

彈初

松籟

吹初

藏開

店卸

室引

毬打

ゆり

水祝

おぼ弓

鳥追

初賣

若餅

葩煎

水飴

春駒

お身矢

松の内

初買

大黒舞

まひひ色

猿まじり

船乗初

おこ板

船玉祭

湯殿初

春永

歳旦開

初芝居

二のうけりとのうけり
初程とのうけりめ

のまのよー
やとらん

馬乗初

ひめとら
遊る初トモ

鏡開

四日

六日年越

若菜摘

まじり

とちき摘

七種

芥薺
佛座 俗田子

鼠薺 草俗手

梅 俗水菜

蘿蔔 俗天根

紫蘇

白馬節會

てらのおぼおぼ 白馬の節會
白陸多 陽陽和合を授け仍白と事と富るなり

踏歌

男とら十五日
女とら十六日
おとらるおとらのおとらる

加作カサキの婿ムコ 踏フミあしと篠シノ子コ 膝ヒザで寝ネて花ハナをうらうら

初子ハツコの日ヒ 月ツキは

持テひ小松コマツ引ヒキ子コ 小コの方カタ角ツノゆゑ

初寅ハツツルの日ヒ 鞠マドままり

初卯ハツウの日ヒ 伯ハク若ニギハヤヒをまり

箕面ヒノの富突トツキ 七日

十日トウジツ多タびす大

女王ニギハヤヒ祿ロクを清スガふ 八日

女メ叙シヨ位イ 同上

卯ウ杖シヅ 初ハツの卯ウの日ヒ 桃モモ柳ヤナギ木キ又マタ八ヤチをす 初ハツ桃モモ中ナカへ有アルる

常陸トウリク帯オビれ神事カミコト

赤アカ休ヒユの女メのあひり人ヒト数カズ多タなる時トキその男オトコともれ有アルる

常陸トウリク帯オビれ神事カミコト

縣ケン召シヨウ

除ノゾク目メといふ三月ミツ十日トウジツより十日トウジツまでおまの入り

御連歌ミツラガ 十日

武器鏡開ブキカガミ 廿一日

牒ハカシメ開キ 十二日

左義長サダキナガ 十五

爆竹ハチマキ

綱引ツナヒキ 十四日

御新ミカマキ 十二日

大内オホウチを

土龍打ツチリウチ 十一日

かじ杖カサキ ちのこき

男オトコと女メのこゝろを打ウチくらむれ

粥占カユウラ 十五日

衾カサキ忌イ 十六日

浮ウキ去ク宗ムネ

上元日カミノヒ 十六日

小豆粥アヅキカユイ 祝イハヒ 同上

三保ミタマ 同上

賭弓カシコ

十八日弓場ユミバ 射イハす

やふ入ヤフイ 廿日

候コト、敷シ入イ又マタ敷シ入イと

父チチ不フ短ミダシ 破ヤブの字ジをうら

骨ハネ正月トウジツ

廿日ニニ田タ田タ金カネをうら

從ツグ宿ヤド下シタり八ヤチ難ガタシあり

養ヤウ業ギョウと保ホむ

加代カダイの婿ムコ 夫婦を結ぶ 初子の日ハジメゴ 子の

初寅の日ハジメツグ 寅の

初卯の日ハジメウ 卯の

十日多びす十日多びす 女玉祿メタマシと後ノチ八日

女叙位メノシヨ同上

卯杖ウサギ 初卯の日の日 抱柎ハカホスハカ 柎の中に入る

常陸帯ヒタナれ神事カミコト

縣召ケンソウ

常陸の常陸守の女御の御人敷の御時その御方ともし候と
亦御事にあつて神事おこなふに候と云ふ事
陰国といふ三月十日より十二日まではおまの又月
棟中へおて任官と云候け文候と云ふ事

御連歌ミツラガ 土日 武具鏡開ブキキヨウ 廿一日

左義長サダキチ 十五日 爆竹ハチマキ 網引アミヒキ 十四日

大内オホウチ おの 土龍打ツチリウチ 十一日

男オトコ 女のこゝを打つらむれ 粥占カユカラ 十五日 御忌ミヨギ 十一日

浄土宗ジョウド 上元日カミノヒ 十六日 小豆粥祝アヅキカユイハシ 同上 三保參ミタマシ 同上

賭弓カシコ 十八日 弓場ユミバ 破ヤブ 骨ホネ 二月 廿日 田タ 全ゼン 骨ホネ 二月 廿日 田タ 全ゼン

父チチ 不登 破ヤブ の字ジ 三ミ 骨ホネ 二月 廿日 田タ 全ゼン

六餅 同上

厄神系

十九日八幡へ奉詣り七夜民お束の
礼とりとめて帰るなり

吉田清枝 著 初天神 廿五日

初不動 廿八日 繪踏 西本つり
切支母と

後にきて踊すはなりの正月十六日
より正月十九日踊すはなりの

遊行札切 正月十六日正月十七日の札切
一日の四一日の内は板と

押仕呂木が日押さるれ敷中より
一季中立ち不立はなくありて文

闇 正月十九日 七月十六日

梅 ころの都まづき茶 秀茶茶 白ひ茶 赤し梅
ぬえ木 落首梅 花梅梅 やり梅 紅梅 柳 春柳 風茶

えと柳 柳髪 川柳 ころ柳
めより柳 雲柳 柳穂
雪の是 雪をえ 郭公 信ひ友 雪
雪を指木 子雪 未結ひて雪

鶯 令衣者 衣者 衣者 衣者
葉者 ぬかひ者 種よき者

霞 八重ころの夜
おほくの夜

鹿の相鹿のぬきま
十うのむ

雪解

松の花 ぬきまの初雪なり

若草 初草 柳系をまき

山笠ふ 山の草本まきと
ゆいり新なり

春鷹 白尾 継屋
朝鷹 泊山

遊糸 陽炎 野馬
糸粒をくく

佐保姫 若の色に深出は神但非神祇
姫とてても喜りあり

風光 陽氣のせまき
と吹風なり

百子鳥

青と暗 春茶茶の
おほくの夜はひのり

苔 春のりあふなり
おほくの夜はひのり

答 春のりあふなり
おほくの夜はひのり

松の花 ぬきまの初雪なり

角とむ芦

玉江咲りの水鳥轉

罌粟は若葉

蓮の根堀

鳴鳥狩

茅か白く

落の臺

猫のつゝ

猫の妻意

野大根

木の芽

あぬくむ

回とせく

若和布

黒鳥芋

あか

雜菜摘

三葉菜片

根白草芥之

姫が萩

魚氷に登

鰻魚と祭

薺

長閑

水和

鳥轉

菠薐

暖

遅日

氷解

鶯鳥

独活

鱒

凍解

春雨

雲雀

防風

鱸

牙飯

畑打

鷓鴣

土筆

蜆

餘寒

畑返

鮓膾

芽花

蛸

暮寒

種物

海雲

兒花

芹

鳥芋

野老

鹿尾ロシキ

鶯菜ウヱ

薺ナブ

青饅アヲクダ

薑ウシヤ

干鱈ヒシカダ

酢蛤スサガ

草崩クサウツ
芝生シラシ

膏雨カウ
とまのゑ

白魚シラサギ
目指

東風コウフウ
和風ワフウ
吹ゆの風

今年コトシ
去年クソトシ

妻ウメ
なぐぬ

妻ウメ
あぐぬ

し妻

春麻氣ハルマキ
氏ウヂ
か

けつとつふ
くくあり

椿ツバキ
た代か椿と色これぞ
高時様とさうりもまへ

二月

夾鐘クワシヨウ
律リツ
驚蟄節ケイシュツ

春分中ハルフンナカ
仲春チュウシュン
陽中ヨウチュウ

如月ニゲトキ

令月レイゲツ

衣更着イサラキ

梅見月ウメミツキ

小草生月 初花月

中和節ニチウダ

朔日ツキヒ

吉野の餅キタノモチ
くし

同ドウ

春日祭カスガヒ

上申ウラシ

水間祭ミヅマ

初午ツキナ

行基キヤウキ
參マツル 二日

遺教經ユイキョウキヤウ
九日

常樂會ジョウラクカイ
十五日

柱炬火ツチノヒ

十五日ジュウゴニチ

比良八講ヒラヤチホウコウ
八日

祇園八講ギエンヤチホウコウ
八日

北野御忌キタノミヨシ
廿五日

道明寺祭ドウメイジ
日ヒ

踊念佛オウダンブツ
時宗トキムネ

文宣王モンケン
顏子ゲンシ 二座ニザ 九替クノカ 七飾シチカザリ
ま秋の夜は後叙道と秋あり

二月堂ニゲトキドウの行ユキ

初午ツキナ 祭マツル 十五日ジュウゴニチ
祭マツル 十五日ジュウゴニチ

并戸ナミドの日の御嶽ミツタケの御嶽ミツタケの御嶽ミツタケの御嶽ミツタケの御嶽ミツタケ
あ偏くと涌ゆらひあし吸北と押あり

初午ツキナ 祭マツル 十五日ジュウゴニチ
祭マツル 十五日ジュウゴニチ

くくく 赤坂本と伝説よ
値くすりりるあり

外記 十一日公卿弁少納言
外記 衣冠まじり

大改定
くそり

献生子

朔日をいすまき成多
病段の種を公認す

社日

春分前後
後の昏目

は日藝来り社翁雨
社日の旬なり

治聾酒

社日に酒と飲と
身の色を修る

薪の能

七日より
十日日まで

芝蔴しりし

その能無插とあるの
その能の上
して能お勸門下の不増に尻花

三まきしるん括不増と縮
つりしりし
つくのわり勸之南大門向
左ちして輪を股はつり
社と勸むるは後分也

彼岸

中より二日め時にも云
彼岸のわかんはなる

積塔

十六日 琵琶法師修又
光孝天皇の皇女の

淫服會

十五日 移るん係
依の別

忌日あり
友路の像を謝り

蕨 子蕨 びりひ子
かきわらわ

蛙 首つる 井の蛙 暮
まきか

水葱摘 花ハ
まきか

出替り

勸系古系
法状目及

虎杖

まきか

燕 毛を修る
まきか

扇

まきか

焼野 加やく 甚やく
山を焼やけ系

焼井 病
まきか

初雷 虫打雷
初まきか

蛇穴といはる

蛇虫穴といはる

蝶 けけ羽のてふ
美てふ白てふ

蜂 似我蜂くすまら
蜂の巣

苗代 植井 植浸
種有種ある

かぶるふ。かぶりも
まのまのまのま

草のまの紫

薺の花

餅花煎

鳥の巢

角落鹿

みとまのむ

五加木

藍はく

銀杏の花

二日灸

麻まぐ

松むり香

彼岸櫻

菜の花

大根の花

八重櫻

花と待

かつら系

虹

初櫻

初花

浦公

若紫

蜻

馬刀

狗脊

杉菜

笑鹿

鯉

出鱈

枸杞

接木

孕雀

蒜

胡葱

野蒜

接穂

雀の子

韭

蒸鱧

引鶴

引鴨

えろと

鳳巾

三月

姑洗

清明節

穀雨中

季春

中和

花飛

竹秋

窗月

袂月

弥生

いやはひ 櫻月

上巳 三日 桃且重三元巳 雛 大裏雛 依紗紙 折うつり

りくほ 茶候 曲水 三日巳字 盃 羽鶴 飛川 上より垂

他終 ともをせと 沙干 恒古 か多 雨川をさへ 鶏合 闘を茂

寒食 正月の正月の二日 己の日 日枝 上の巳日 門廻り

須戸の枝 上同 源氏 經供養 天王寺 高雄法華會 十日

やま ひむ 善道 十日 壬生祭 十四日ヨリ 壬生の仏

千本念佛 寺中のそれ

御身拭 十九日 汗を拭く 人磨忌 十八日 高樺女詣 廿日

吉野社會式 十日 浅草祭 十八日 三社

梅若詣 十五日 順の峯入 道の香入 秋の香入 阿蘭陀 八津すまひ

奉遊時 ふりま 鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

鞞鞞 フツコ

くもてけりしそくふ家女

花盛

ふかむり花の
似はむ

サトウを搦て重搦八重搦 贈さうしんさうさく 蘇様いせにうし
櫻を搦さうさく 陸のゆ搦 贈さうしんさうさく 蘇様いせにうし
重井搦 白さうさく 子り搦 重井搦 てさう搦 蘇様いせにうし
貴妃搦 あり搦 会さうさく 子り搦 八重搦 さうさく 蘇様いせにうし
貴妃搦 あり搦 会さうさく 子り搦 八重搦 さうさく 蘇様いせにうし
貴妃搦 あり搦 会さうさく 子り搦 八重搦 さうさく 蘇様いせにうし
貴妃搦 あり搦 会さうさく 子り搦 八重搦 さうさく 蘇様いせにうし

葉は若ふゆわの搦りとる華 虎の尾を若葉かきし華

桃 俳桃 白桃 姫桃 けりぬのさか

躑躅

白さう
蘇様いせにうし

蓮むつり 玄かつり 素徳殿つり 菊山むつり 白きつり 條は

葉をむつり 小式あり 株にあり 藤のつり 神に 音徳つり

藤 蘇様いせにうし
白花 蘇様いせにうし

蘇様いせにうし
蘇様いせにうし

山吹 蘇様いせにうし

白花のさう
蘇様いせにうし

力いさきふのこまり後
つくさむるとも羽子修

蓮錢 蓮に似く
小きお葉に

むかしん茶 若牡丹とやら 花は若葉牡丹修 茶摘 茶に似く
若葉牡丹とやら 花は若葉牡丹修 茶摘 茶に似く

田鼠化て鷄と成 田鼠と唱一田の籠に
わくはくともちのち

蚕子
まき子

麦鷄 ひろくさ 海棠 ひろくさ

けろくさ
まき子

梨の花 柳のつらふ
あふは

令法

まき子

連翹

沈丁花

まひ絲

馬酔木の花

三
葉櫻

葉柳

辛夷

長春

犬櫻

東菊

春菊

寒の花

李の花

木蓮花

九輪草

金錢花

金鳳花

櫻の花

竹の秋

小羊毬

丁子草

母子草

茗荷竹

仙臺款

小梅の花

林檎乃花

杏子の花

揚梅の花

通草の花

蕪枋の花

春蘭の花

木瓜の花

馬蘭

櫻鯛

櫻貝

柳鮫

小鮎

八十八夜

山吹衣

若菰

上リ菰

鷹の巢

呼子鳥

櫻魚

三月尽

三月尽

五形

柳葉魚

郭公巢

燈ノ火

炉塞

三月尽

小米花

桜うぐい

鳶の巢

引踏勢

火燧塞

三月尽

當此書

春の限 春の限 春の限 春の限

春の隣 春の隣 春の隣 春の隣

夏を乞 夏を乞 夏を乞 夏を隣

炎帝帝 祝融神 昊天 朱明 蒸砂

躡蹟

四月

仲呂 立夏 節小滿 中正陽 孟夏
余月 乾月 初夏 首夏 卯月

卯花月 花名残月 鎮月

硬衣 百白重 卯のむね 卯のむね 卯のむね 卯のむね

孟夏旬 一日天子より群臣の病を乞ふ

編みものふ 卯のむねの氏子の女を捕らうとす男のむねと

灌佛 八日 佛生會 竜花會 湯あき佛

神衣祭 十四日 麻積の連との中人麻を乞ふ

日光祭 十七日 賀茂祭 国祭

地主祭同上清水

和歌祭同上紀及

八瀬祭辰日

戒壇堂開帳八日

嗟我祭

水屋能三日四日五日南良春日

當ノ法事日

中将姫
忌日

千團子十六日三井寺鬼子母神請

花供廿日大府の

夜多し
元多し

神祭掛を林掛を

三枝祭南川

土塔會天王

松前渡花鷹塙入毛とか少

杜宇杜宇杜鶴

郭公子規時鳥鳥鸚鵡四手田長勸農鳥天婦無常鳥

蚊蚊

蝙蝠蝙蝠

螢螢

助助眉眉白筋白筋

知の花知の花

葵二葉葵日臨葵

橘橘

牡丹牡丹

花玉花玉

芍薬芍薬

夏木立夏木立

木の下木の下

青麥青麥

眞眞鮎鮎飯飯鮎鮎

よよひひささらら

短夜短夜

大矢数大矢数

青東風青東風

和清の天和清の天

新茶新茶

養酒養酒

玉卷草

玉卷芭蕉

古茶

蘭の花

罌粟の花

綿種詩

花抽

鳴足草

桐の実

ぬきうす

薔薇

苔の花

桐の花

あちちひ

岩藤

柿の花

茶の葉

うけやま

一八

手毬花

風車

わらわら

鳶尾

わらわら

蓮の葉

藍の葉

踊花

竹の子

岩梨の花

黄櫨の花

若櫨

笋

木の糸

石薺の花

蕨椿

すのこ

蓮の葉

枳殻の花

蓼

きしくのむ

蓮の葉

厚朴の花

落

利根草

蚊帳

桜櫨の花

紫菀

紙帳

とくとうげ

柑子の花

檳柑の花

九年母の花

登げ花

金柑の花

雲州櫨の花

常磐木の落葉トキイキ。松杉檜榿等也

若葉の花

蠅フミ

蠅虎ハナリクモ

蚯蚓出トコノコ

鹿の角袋

蚤ヒル

蚊子ヒコ

子又ヒコノコ

攤劍ヒコノコれ子

蛙ヒル

飛蟻ハアリ

枝の燧ヒコノコ

あまうり鱗

初鯉ヒコノコ

鯉釣カニヒンホ

蟹醬カニヒンホ

志和鳥賊イカ

蚰蜒ヒコノコ

鴉カシヨリ

鵲鳥カシヨリ

青鷺サギ

一夏籠ヒコノコ

夏行ヒコノコ
夏花ヒコノコ
夏行ヒコノコ

安居アンゴ夏行ヒコノコ

夏籠ヒコノコ

夏籠ヒコノコ

五月

葵賓スズヒコ 芒種節スズヒコ 夏至中スズヒコ 仲夏スズヒコ 茂林スズヒコ

菖目スズヒコ 五月

阜月スズヒコ

早苗月スズヒコ

鶉月スズヒコ

橘月スズヒコ

甲飾スズヒコ 甲人形スズヒコ

端午スズヒコ 艾虎スズヒコ 蒲人スズヒコ 赤靈スズヒコ

懺立スズヒコ 小幡スズヒコ

あめめほあめめの真スズヒコ わやめを刀スズヒコ あやめ川スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ

菖の節供スズヒコ あやめ川スズヒコ あやめ川スズヒコ あやめ川スズヒコ あやめ川スズヒコ

あめめほあめめの真スズヒコ わやめを刀スズヒコ あやめ川スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ 志和スズヒコ

粽スズヒコ ささくちスズヒコ ささくちスズヒコ ささくちスズヒコ ささくちスズヒコ

角粽スズヒコ

粉團射スズヒコ 五日節スズヒコ 五日節スズヒコ 五日節スズヒコ 五日節スズヒコ

藥日スズヒコ 五日スズヒコ

藥玉スズヒコ

長命縷スズヒコ 續命縷スズヒコ 粉絲スズヒコ

藥草摘スズヒコ 薨野スズヒコ 百州摘スズヒコ

藥日スズヒコ 五日スズヒコ

百草と戦しやくくの葉と合あ

騎射きや五日ごにち本道ほんちうのまきつらひまき菖蒲あやむの風かぜと

水馬みづうま五日ごにちあやむとさるさるよて

見車けんぐるま同どう秋あきの至いたる

印地打いんぢうち

賀茂の競馬かまのけいば五日ごにちくらゝくら奮ふるむま

住吉御田植すけよしごゑ廿八日にじゅうはちにち

生玉流鏑馬なまたまりゅうさやば五日ごにち

伊勢山川祭いせせんがはひまつり八日やっぴにち

山田御田植やまだごゑ四日よにち

射殺しやく五ご耕かうの末すえ吉きち化けの末すえ多た務む

有無あひなしの日ひ廿五日にじゅうごにち日ひ終はつ日ひ所ところ例れいと

とも侍ともざむらいををつてつて不ふ可かなりなりののをを奏そうすすらり

惟子ただこ拾しよ惟子ただこ

花はな赤あかききううゆゆととつつ

祇園御興洗ぎげんごこうせん晦くわい日ひ夕ゆふ

五月雨ごごのあめ

青梅あおばい梅うめつつけけ

羽はねねけけのの志しもも毛もとと

雌メ蟬せみ故こののままはは小こ茶ちやとと

五月雨ごごのあめ

青梅あおばい梅うめつつけけ

羽はねねけけのの志しもも毛もとと

雌メ蟬せみ故こののままはは小こ茶ちやとと

五月雨ごごのあめ

青梅あおばい梅うめつつけけ

羽はねねけけのの志しもも毛もとと

雌メ蟬せみ故こののままはは小こ茶ちやとと

百合 ヒヨドリバナ 花の白く、葉の青く、花の白く、葉の青く、花の白く、葉の青く、

田植 タノウキ 田を植る、田を植る、田を植る、田を植る、

早瓜 ハヤウリ 瓜の早く、瓜の早く、瓜の早く、瓜の早く、

鏡普草 キョウフソウ 草の葉が鏡の如く、草の葉が鏡の如く、

未摘花 ミテキワ 花の摘み取らぬ、花の摘み取らぬ、

蝸牛 カタツムリ 貝の殻が蝸牛の如く、貝の殻が蝸牛の如く、

照射 シャツ 光の射る、光の射る、光の射る、光の射る、

麥刈 マキ 麦を刈る、麦を刈る、麦を刈る、麦を刈る、

覆盆子 フスベ 果の赤く、果の赤く、果の赤く、果の赤く、

紫陽草 シヤウソウ 草の花が紫の如く、草の花が紫の如く、

忘草花 ワシクサ 草の花、草の花、草の花、草の花、

樗 シロネ 木の葉が樗の如く、木の葉が樗の如く、

鯨狩 クジラ 鯨を狩る、鯨を狩る、鯨を狩る、鯨を狩る、

入梅 イロメ 梅の入り、梅の入り、梅の入り、梅の入り、

蒼木焼 ソウキヤク 木の葉が蒼の如く、木の葉が蒼の如く、

石菖 イシキヤウ 草の葉が石の如く、草の葉が石の如く、

夏菊 ナツキク 菊の花が夏の如く、菊の花が夏の如く、

枇杷 ヒバ 果の黄く、果の黄く、果の黄く、果の黄く、

若竹 ワカタケ 竹の若く、竹の若く、竹の若く、竹の若く、

天蓼 テンリョウ 草の花が天の如く、草の花が天の如く、

藻の花

藻と川

藻川舟

萍の花

菱の花

樗の木焼 シロネ 木の葉が樗の如く、木の葉が樗の如く、

天南星

早松茸

早初茸

生胡桃

南天の花

ひまわり花

さくらんぼ花

下り花

山椒

百合ヒョウラン 花由り 花ゆり 花ゆり

田植タネウチ 苗をまき 田うり

早瓜サウキ ありあり 白あり

鏡誓草キョウセウソウ くるくると

未摘花ミツクハナ 花の 金銀花キンギンカ 冬

蝸牛カキガ かのこあり 獸狩ケモノカリ

照射トヒ 光射さる 照らす 照らす

麥刈マキ 麦粉 麦ワラ

覆盆子フスボ 木の子 葉の子

紫陽草シヤウソウ 四つ葉

忘草花ワシラナ 也 眞菰刈マコメカ 花

樗シロキ せん入のむ 菖蒲ショウブ 根

兜狩テウカ 虎山の花

五十一
狗子イヌ

川葱カハネ

根芋ネイモ

若草ワカキ

青田

胡瓜キウリ

藟アズミ

栗の花

茨の花アザミ

楠の花ナハ

浅毛アサギ

田舎イノ

稗蒔ヒトリ

柗蒔キジ

桑の實クワノミ

花菖蒲アサガハ

朝露草アサツキ

青小豆

粟蒔

荏蒔アヲ

玉簪タマシズク

六月ムナシ

花柘榴ナツメ

和布ワフ

青アヲ

馬齒草ウマノコ

胡麻蒔アヲ

そとアヲ

梅花ウメ

築打ウツ

鮎アヲ

蕪カハ

莧カハ

蟹カニ

黒クロ

蚊帳カマド

水鏡ミヅキョウ

水馬ミヅウマ

蠅螂ハエ

水鳥ミヅトリ

萼ハダ

白シロ

合歡カウカン

水鏡ミヅキョウ

水雞ミヅトリ

蛇衣ヘビキ

鴨カモ

鳧カモ

白シロ

あつアヲ

干鰓カハ

芋イモ

蜂ハチ

蛆ウジ

毛モウ

白シロ

沖ナカ

六月

林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節一日 氷の貢

氷室 氷餅祝月

一夜酒 麻地酒 體粉酒

富士詣 一日 坊離 精進

六月會 天台宗 祇園會

河社 十日 祇園會 十日 祇園會

御躰の御卜 十日 祇園會の友人 玉辨に侍侍

除時の系十五日にわり

厳嶋祭 十五日

津島祭 十四日 勢田祭 十四日

御手洗詣 廿日

竹生島祭 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

愛宕十日詣 廿四日

鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 礼 十六日

賀茂水無月之能 廿日

大坂座祭 廿三日

唐崎祭 廿日

橋立祭 廿五日 住吉御被 廿日

施米 東山比山西山

大枝 廿日 後川

小蠅おひ神

大枝 廿日 後川

六月

林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節 一日 氷の貢 氷室 氷餅祝日

一夜酒 麻地酒 麴粉酒 前日につくり翌日供は

六月會 四日 天台宗 祇園會 七日

いさくのみを巻くいさく
除時の系十五日にわり

富士詣 一日ヨリ 坊離 精進

御躰の御ト 十日 林祇友の友人 五辨に侍はく

夕顔

子ひやうり

撫子

花の竹 花の竹 花の竹

蓮

荷葉水芙蓉 蓮の葉 蓮の花

蓮の葉

蓮の葉 蓮の花

射干

蝉 射干

夏虫

火名虫

神鳴

雷 神鳴

青瓢箪

瓢箪

南瓜

花も実も

夕立

白雨

蠶

蠶

江戸

初鮭 六月十五日を薩摩州

せこ

膾 大魚の身を煮た

陸

陸を海にのり煮た

日野

日野をのり煮た

石尊

石尊 六月廿日相及大山不動

綿の花

醬油造

葛の花

納豆造

極暑

あつさ日

炎天

その暑

溽暑

むとく物

菱の花

蘭と刈

菅と刈

藍と刈

白麻刈

蒲の穂

青蕃椒

醬造

奈良漬

竹の皮枝

昼顔の花

麒麟草

けいご菜

馬の尾花

日盛

日傘

温風

風薫

藿乱

葛水

水飯

麻頭巾

麻羽織

振舞水

水化粉

香薰散

砂糖水

洗ひ飯

夏枯草

干飯

青鬼灯

鷹羽はくひと習ふ

林檎

赤草

納

茗荷の子

道明寺水

鳥糞搗

杏

杏子

澤泻

早桃

洗鱸

洗鯉

煮冷

杏

河

風蘭

楊梅

海月取

金龜虫

雲雀鷹

鷺草

李

凌霄

眼皮

菱の花

蘭と刈

菅と刈

藍と刈

白麻刈

蒲の穂

青蕃椒

醬造

奈良漬

竹の皮扱

昼顔の花

麒麟草

けりうの糸

馬の尾花

日盛

日傘

温風

風薫

藿乱

葛水

水飯

麻頭巾

麻羽織

振舞水

水吐粉

香薷散

砂糖水

洗ひ飯

鯖釣

夏の別

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

こぬ秋

妹と侍

秋

少皞帝 蓐收神

爽頼

旻天

白蔵

金商

七月

夷則律 立秋節 處暑中 孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會 硯洗 秋洗 七度食 星の手向 詩哥連非七夕會

二星

彦星 織女 女七夕 男七夕 星の契

あまの川

銀河 銀浪 銀漢 川の川 星合の濱

かぐやの橋 雁鶴の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠

乞巧針

乞巧針 七孔の針

七種の船

七種の船 昔の船 女房の船 花の船 月夜の船 秋の七種の船

七箇の池 七箇の水に星を懸け

飛鳥井家七夕の鞠

池坊七の立花

荷前の使 天子より諸廟、勅使立

文殊會 八日 六道参 九日

清水三日詣 槓買 火祭のたき、須臾扱ひ終

盂蘭盆 盆供 諸寺施餓鬼 日より十五日迄

梶比葉 七夕の夕の葉

御門跡籠花 花の籠り

撰待 撰待の人のあそび

逆の峰入 本山七月、當山八月

聖靈の迎鐘 同上

焰魔参 十六日

盆市 聖吳、聖吳、竹

芋壳 土器

手向物 根芋 枝豆 青いけいぐさ 青柿 青梨 青桃 龍尾草 粟穂 柳穂 稻穂 瓜の馬 殆子の牛

燈籠 おくりとら 丸しんち 取

送り火 鹿谷 大文字 燈籠 鳥井 松岡 妙法 舟岡 八角形

燈籠踊 長谷

題目踊 松ヶ 中元 七月 十五 盆の法 伊勢山田を所く乃

空物 をえり 扇置 技扇 生身靈 父母の魂を飯 夏書納 おまじり 經木流

新綿の奏十六日 貢物

小信 奈角力 移目と儀

一葉 相の花をみる

の吹あはれ本萩

一株に百本つく有萩と云ふ

や、糸にすゝく、文成電にゆり

葎花ハ一日の榮るなり

相撲はな 口はな 目はな 丸はな 丸はな

小田まきり かけまきり 喜成丸 誦し

萩 けられなき

筵萩 百元萩

葎花 朝負

ととと 女師花

花とじ 男良花が、ちらのむ

益母草 女色

蘭 ちぢせうの

はんごう ちぢせう

秋小あ ちぢせう

蝨 ちぢせう

蝸 ちぢせう

薬師州 ちぢせう

桔梗 ちぢせう

蓮の実飛 ちぢせう

藤にむむ虫の若に鳴るなり

養虫鳴 ちぢせう

蝸 ちぢせう

秋の螢 ちぢせう

新綿の奏十六日
貢物

小結 素角カ

移司と儀、

踊ハトリ 小町ちやう へせへせ ころり

かけかけ ころり

ころり ころり

松崎まつざき ころり

善政ぜんせい 踊うた ころり

一葉ヨウ 相あひ の花はな ころり

毛け ころり

萩はぎ ころり 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり

の心こころ あし 此こゝ 本萩ほんはぎ

萩はぎ ころり 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり

萩はぎ ころり 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり

萩はぎ ころり 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり

一いち 株くさ に 百ひゃく 本ほん 萩はぎ ころり

ゆゆ 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり 萩はぎ ころり

萱花うなはな ころり

薺なづな 朝あさ 負おと 花はな

萱花うなはな ころり

筮萩しはぎ ころり 百元萩ひゃくえんはぎ ころり

薺なづな ころり

薺なづな ころり

女郎花ぢやうらうはな

秋の胡蝶 てつし 寄を信ひ

秋津虫 あきつむし 赤とんぼ 鬼とんぼ

松虫 すまのこ 虫撰 あきまき 虫合 虫籠

秋風 あきかぜ 津吹 初風

鳥屋出の鷹 とりやでのかげ

露 つゆ 朝露 夕露

鳩吹 とぶき 鳩の吹

新涼 あたらしく 新涼

早稻 あはれ

初て涼 あはれ

冷酒 ひやかし

冷酒 ひやかし

青蕎麥 あおそば

冷麥 ひやそば

初て涼 あはれ

今秋の秋 あまのあき

餓暑 うらぶさ

餓暑 うらぶさ

あき 麦

あき 麦

常山の花 つねやまのはな

西瓜 すいか

木瓜の实 ぼけのこ

鈍豆 にぶまめ

くらげの虫 くらげのむし

番椒 ばんからん

桃の实 もも

犬子艸 いぬこくさ

小車花 こぐるまはな

柳散 やなぎちり

黄柳 わうりゅう

芭蕉 はせわ

茗荷の花 みやげの花

桐 きり

茶の葉 ちのは

あき 茶

鬱金の花 うげんのはな

楸 きり

毘麻 ひま

焼米 やきこめ

やいばら

蝻 せみ

ちり

垣豆 かきまめ

すきふ茶 すきふちや

花火 はなび

秋の胡蝶コテフ てつよふを徒に

秋津虫アキツムシ とんがりやんま

松虫マツムシ くまらむし
虫撰ムシヒラ 虫合虫籠 いとうこころひきき

鳥屋出の鷹トリヤデノトビ 鷹の山別初をね

秋風アキカゼ 初風 初風

鳩吹トビウケ 鳩の吹 鳩の吹

露ツユ あつた あつた

早稲コメ む後のものを 早稲 縮まり 新涼

初て涼ハジメテスズメ 涼る矣 今秋の秋 餞暑

冷酒ヒヤシユ 青蕎麥 冷麥

槐花

絲瓜

結音草

茶調虫

夕負別當トカホ當虫トカホ紫萼ムラサキ

八月

南呂律

白露節

秋分中

仲秋

壯月

桂月

竹春

舂月

葉月

鷹來月

秋風月

月見月

八朔

繪行器カケ錄カケ當日禁中之式有

田面祝

田実祝

天中節

朔日

秋社秋分過ぎ成の日五穀の神と祭

塚天神祭三日

北野祭四日

白髭開帳五日

八幡祭十五日岩清水イハシヅメ放生會ニハヒ

八幡ハチマタ

阿野津八幡祭十五日伊勢イセ

豊浦八幡祭十六日

鶴岡八幡祭

箱崎八幡祭

筑前

宇佐八幡祭日豊前トヨノミ

志賀八幡祭日

深川八幡祭

江戸

板鼻八幡祭日上州ウツチノ

司召シウシヨウ

系官の六位とてとて

菅大臣祭

亥活杖イノクサ乃祭

お恨刑法と定めぬ

老と世をたす
まろしうあり

秋奠 あきまつり
三月、山

西院祭 さいいんまつり
廿日

名月 なげつ 十五夜 三五夜 名高き月 芋名月 ことひ月 新月
良夜々々あり月 此外月 異名月 部三悉

駒牽 こまけん 駒連 正月の駒きり糸の駒 地摩屋 駒と引
甲斐の駒牽 十七日 武蔵の駒牽 廿二日

龍田姫 りゅうでんひめ 秋のまじと除けまはす
徳化の神と非神也

秋比宮 あきひのみや
中宮の
ひひく

いかとせをの 鶴鶴 つるつる

後の彼岸 あとのひがん
既迄

小鷹 こたか 小鷹狩 鷹の巢も也

尾鷲 おしづ

小傘 こかさ

雀賊 すずめぞく

黄鷹 わうたか

青鷹 せいたか

おとされ

ひつり鷹 鷹打 たかうち のつら 鶉鷹 うぐいすたか

鷹 たか 鷹狩 鷹の巣も也 鷹の杖 鷹の文之

巴鳥 あまのこ 巴十雀 六十雀 固一あり 巴鳥より ほん

鶉鷹 うぐいすたか 鶉鷹のつら 鶉鷹のつら 鶉鷹のつら

鶉鷹 うぐいすたか 鶉鷹のつら 鶉鷹のつら 鶉鷹のつら

小鳥渡 こたかわた 鹿 か 鹿のつら 鹿のつら 鹿のつら

鮭 さけ 鮭のつら 鮭のつら 鮭のつら

瀝貼シヤク 落貼ラク 下籜ゲノくつれ葉ハ うぶに葉ハ

薄ハク 名ナのすきス 糸イトのきキ

蒼ソウの羽ウのきキ 尾花ビハ りリと尾ビ尾ビの中ナカにニねネ

葛クワ つツこの細ホソ乃ノ つツこの細ホソ乃ノ

薄紅葉ハクベニ 蓼リウの錦キン けケそソ葛クワ

葛クワ くクすスのノむム 着ツのノ振ヒわワるル

去クとトみミ 紫苑シエン

月草ツキクサ 露艸ロショ 花紫ハナムラサキ 花紫ハナムラサキ

藍アイの花ハナ 紫苑シエン

鴈来紅ガンライコウ 葉雞頭ハエトリ

茴香クミンの實ミ 紫苑シエン

瓜ウリ のノくク瓜ウリ 錦文字キンモンジ

蒲葦フウイ 宇治ウジの花園ハナヅカ 草花也クサハナ 非正花ヒセイカ 乙女オンナの根ネ

稍乳シヤウニ 乳ニのノくクあアるルのノ根ネ

枳シ 生ナるルのノ根ネ 稍シヤウ 生ナるルのノ根ネ

稻イネのノ根ネ 稻イネのノ根ネ 稻イネのノ根ネ

八束穂ハチスク 新米シンマイ 秋アキの田タ 田タのノ毛モウ 田タのノ毛モウ

二百十日ニヒヤクニジュウニチ 東呂子トウロコ 東國トウクニのノ根ネ

案山子アンサン 木綿取キワタ 芋イモ 芋イモのノ根ネ

菜種サイチュウ 牛房引ウシバウヒキ 薯蕷ショウモ 薯蕷ショウモのノ根ネ

粟アワビのノ根ネ 粟アワビのノ根ネ

種瓢箪
牡丹の分根
稗刈
種南瓜
種夕顔

芽蘆
種茄子
蔓陀羅華
金剛草
蕎麥の花
雞頭花
藥堀

鳳仙花
百部桂
野菊
鴨上戸
木犀の花
縷紅
鬼灯
若菜若

百部桂
野菊
鴨上戸
木犀の花
縷紅
鬼灯
蕎麥の花

野菊
鴨上戸
木犀の花
縷紅
鬼灯
蕎麥の花

鴨上戸
木犀の花
縷紅
鬼灯
蕎麥の花

通草
木芙蓉
木芙蓉

冬瓜
大豆別
小角豆引

江鮭
かど鳥
太刀の魚

竹の春
初汐
野分
はまの帰

花壇
石
野分
はまの帰

九月無射
寒露
霜降
季秋
玄英

季商
紅樹
菊天
素秋
舞射

九

三十一

残秋 末秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰月 杪秋 あまの月 梅あけ月

のきま月 木深月 木末の秋 小田刈月

重陽の宴 九日 重九菊且菊節の酒 重陽栗且栗節の酒

九日小袖 菊重衣 紅葉の土器 後の離れもの

豆袋 七日後の儀 不堪田の萎 七日の儀 桂宮相撲 八日 泉涌寺舍利會 八日

醍醐祭 九日 能わ 御香宮祭 九日 覚 鞍馬祭 此日 貴布祿祭 此日

生王祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十一日

白川祭 十一日 岩倉祭 十五日 北山 栗田口祭 十一日 一宮祭 十五日 河内

岡崎祭 十六日 東山 木幡祭 廿五日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿日

北山祭 廿六日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津国

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 天満鎗流馬 廿五日 大坂

三十三

異服祭 十七日 ぬきき系 津国 波利祭 高辻

聖々々乃別也

植川乃後

慶會新嘗會 九月十六日 十七日 礼拝 勅使あり

伊勢御遷宮 十六日 廿年 目御社立替 夜分也

神田明神祭 十五日 江戸 日蓮御難代餅 十三日

住吉の市 十日 升の市 十日の市 住吉孔相模 同上

後の月 十三夜 二夜月 皇名月 月のまろ 菊 菊合目 菊更生

黄菊 紅菊 醉楊妃 羊飲 回峯 女郎 周盈 才り菊 金目 貫白菊
程々菊 残る菊 十日の菊 承和菊 黄菊

残菊 十日の菊 又 又 枝 枝 紅葉の花 紅葉の花 紅葉 紅葉 楓 楓

名木散 名木散 秋 秋 柱 柱 銀杏 銀杏

柚 柚 林 林 申 申 材 材

荷所棟 ハナノキ 木ノ葉も花も似たり 和州巨勢と云ふ

栗 クリ 木ノ葉緑くく似てくちり 椎 シロネ 木ノ葉

黄蜀葵 オウゴン 花 ハナ 紙 シ 漆取 シロ 芦 アシ の穂 ホ

思 オモ 糸 イト 野山 ノヤマ の錦 ニシキ 紅葉 ベニハ 黄頰 オウゴン の林

草花枯 クサハナカ 木實 キノミ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

木實 キノミ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

梅紅葉 ウメベニハ 漆取 シロ 野山 ノヤマ の色 イロ うら枯 ウラカ

三つぎ

心よん

ぬん

霜踏鹿

新蕎麥

葉薑

狼獸と祭

柘榴

胡桃

露霜

夜寒

紅葉鮒

檀

榧

苑豆

漸寒

露寒

冷

うぎ

檫

柞

桐油の實

露時雨

将寒

長夜

おむ

檫

蕙

尾越の鴨

葛蕪王

蔓梅嫌

新酒

番船

茶々興祭

住吉れ神送

熊栗れ柵搔

薩摩芋

晚稻

蒲萄酒

上方秋狩標榜の物為とつては人入はと

茶々興祭 茶々興祭 茶々興祭

廿日

何首烏

梅嫌

小瀑江鮒

袈

九月尽

暮秋

廿日

進爐炭ニ式ニ 燻糟喰同上 拜壇同上

興福寺法華會六日

東福寺開山忌十六日

法勝寺大乘會廿八日

金毘羅祭十一日

達磨忌廿日 十夜の念佛

ニ式ニ 御取越二向

維摩忌廿日

日蓮御影講法花宗 十三日

御取越二向

親鸞上人の忌日蓮上人の忌 十月廿六日日本願寺にて大徳のゆゑにまぢり

惠美酒講

廿日 法華寺商人の御影講にて勸じり

茶の口切

爐開

巨燧切重と 炭

炭竈 炭燒 賣炭雜 炭取 炭俵 白炭 輪炭

点炭 助炭

回炭 小野炭 冬籠

うつく火 懐炉 九人巻

池田炭 熊野炭 櫻炭 藥炭

楢

田舎にそと大きある木の根を

ねんぐろの皮

綿

綿糸をよるといふ

衾

紙糸紙糸する 萩の衾

頭巾

すきん ちやん

月牙

柳のり

蒲團

綿入羽織

鐘牙

萩のり

紙衣

紙子羽織

初氷

葛のつら

綿子

絨のりじ

寒菊

菊のつら

足袋

ありのすじ

鴨鷹カモタカ

鷹のつら

石落

革羽織

鰯

鰯のつら

山茶花

冬木の櫻

鰻

冬牡丹

八手の花

枇杷の花

飯花イハナ

飯花イハナ 何れをも冬候と
かづりまかす

菜のつら

菜イナのつら かりか 掛か

蕪引カカシ

大根引

納豆汁

氷漬

冬の子を

あがり

風木枯カキの風
草木の冬候も冬

天の月

枯野カシノ

枯野カシノ 冬候も冬

落葉オチハ

落葉オチハ 木の葉も冬

川音カハネ

川音カハネ 松風の

霜シロ

霜シロ 木の葉も冬

月の和ツキノニ

月の和ツキノニ 松の

初雪ハツユキ

初雪ハツユキ 木の葉も冬

液雨エキアメ

液雨エキアメ 冬候の後

水鳥ミヅトリ

水鳥ミヅトリ 秋砂 浮鳥

鴨カモ

鴨カモ 冬候の後

千鳥チトリ

千鳥チトリ 破子も川子も

鶯カシノ

鶯カシノ 冬候の後

わらわら

わらわら 列鳥のつら

生海鼠

このころ

網代のりしろの氷魚こほろぎひき

夜興引

妙音講

諸国座頭の祭也十月十四日一郡一の座頭仲間寄合官列とて一弁天妙音并

の尊像とて種々供物を備へ順番に平家をいふかゝり通夜する

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中

間正朔易

霜晨

氷北

星紀

畧知

芸生

宵氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月

雪見月

朔旦冬至

十一月朔日冬至至るれり是十年の事

一陽佳节

十月無陽の月と冬至より一陽來復

曆の姿

宮線と添を

糸をひきて日の長短と申

履を献唐をて嫌より姑領と奉る

相嘗祭上卯大和

住吉大神 死師 鴨 恩智 意富 葛城 日前 右の神主宮幣を請取行ノ祭あり

新嘗祭中卯今年

の初穂を天子より

豊元明の節會

中辰今年の新米神

奉り 天子も召れ臣

殿上の淵醉中刃

長臺コトビの試シ 五節の舞ノマヒと
御覽ミと
童女御覽コウノメミ 卯日清涼殿ウ童女
と召ヒれ御覽ミ

鎮魂祭チンコンサヘ 離魂リコン
空也忌カラヤキ 十三日
鉢扣ハチカケ 俗装ソコザウと忌

大師講オオノシカウ 廿四日
報恩講ホウオンカウ
向宗祖師親ムコソウソウシ 舊上人の忌イロウジンノイマヒ 廿月廿八日
本願寺ほんねんじにて廿二日より廿八日まで七日

芝居シバ 顔見世カホミセ 朔日
芝揃シバソロ

髮置カシメ 十五日
袴着ハカマギ 同上
雪ユキ 六ツの面オモて 雪ユキの面オモて かみゆきかみゆきと名

雪車ユキクルマ 雪車ユキクルマと名

網貫アミツル 同上
雪垣ユキカキ 雪草ユキクサ 雪草ユキクサと名

雷カミナリ かわられ
雪吹ユキフク 吹フクを風カゼ
氷ヒヤ 氷ヒヤと名
翼ツバサ 翼ツバサと名

氷柱ヒヤツタ 銀竹ギンタケ
寒苦鳥サムクトリ 羽ハを以もつて名なに法ほふ名なの毛けをひらひ合あは
魚イサ 魚イサと名

鮎アヲ 鮎アヲと名
鯨クジラ 鯨クジラと名
玉子酒タマゴサケ 玉子タマゴ酒サケ

鮎魚アヲイサ 鮎アヲ魚イサ
湯ユ 湯ユと名
風呂吹フユフク 風フユ呂フク吹フク

茶冷チャカラ 茶チャ冷カラ
玉子酒タマゴサケ 玉子タマゴ酒サケ

鮎魚アヲイサ 鮎アヲ魚イサ
湯ユ 湯ユと名
風呂吹フユフク 風フユ呂フク吹フク

蕎麥ソウメン 蕎麥ソウメンと名
鮎煮凝アヲニキリ 鮎アヲ煮ニ凝キリ
蕎麥ソウメン 蕎麥ソウメンと名

水仙 金盞 銀臺

冬至梅

太山檜

葱 葱ひとり

雪の下

胡蘿蔔引

薑引

石荅

鮎

凍

はゆるふれ

ろくろ

睨

戰

鷹 鷹かこもる 鷹狩 鷹さす 鷹渡 鷹狩 鷹さす 足鷹

分巻 鳥さし巻 巻 かん 茶 巻巻巻 巻の巻 巻

退羽打 退羽さす 退羽

名さこ 八 八 八

ぬすこきる 雀のたもと雀も

偷立書 ちかき書

松木の松を片豆うてつらむら

羽あじはる 羽とあじはる

雀の嫁持 女雀

屋形尾 雀の尾

夏左毛 雀の秋尾

ぬくかゝる 雀をぬくかゝる

そのものおれ 雀のついで

鳥糞 雀の糞

松よはく 雀のついで

鷹 仁徳天皇の御宇百濟国より 鷹と献げ 天皇御狩の時

始て雉とて 雀のついで

里神樂 禁中の外代神樂ハ 皆里からついで

燎 たるくたといふ

神樂哥 神樂の歌

加々神祇カカシノミ 早哥ハヤカ

後々ノチノチ 延平ノボリ 延平ノボリ 延平ノボリ

小前張コサキ 小前張コサキ 小前張コサキ

御火燒ミカヤキ 御火燒ミカヤキ 御火燒ミカヤキ

新玉津島御火燒ニウタマツシマミカヤキ 新玉津島御火燒ニウタマツシマミカヤキ

三島酉ミツシマウ 三島酉ミツシマウ 三島酉ミツシマウ

日吉臨時ヒヨシリンジ 日吉臨時ヒヨシリンジ 日吉臨時ヒヨシリンジ

採物哥シモノカ 採物哥シモノカ 採物哥シモノカ

大前張オホサキ 大前張オホサキ 大前張オホサキ

星ホシ 星ホシ 星ホシ

御火燒ミカヤキ 御火燒ミカヤキ 御火燒ミカヤキ

宇賀祭ウカマツリ 宇賀祭ウカマツリ 宇賀祭ウカマツリ

山神祭ヤマカミマツリ 山神祭ヤマカミマツリ 山神祭ヤマカミマツリ

賀茂臨時カモリンジ 賀茂臨時カモリンジ 賀茂臨時カモリンジ

東三條御神樂トウサンジョウミコノカ 東三條御神樂トウサンジョウミコノカ

山科祭ヤマカキマツリ 山科祭ヤマカキマツリ 山科祭ヤマカキマツリ

平野祭ヒラノマツリ 平野祭ヒラノマツリ 平野祭ヒラノマツリ

春日祭カスガマツリ 春日祭カスガマツリ 春日祭カスガマツリ

松本祭マツモトマツリ 松本祭マツモトマツリ 松本祭マツモトマツリ

當麻祭トウマツリ 當麻祭トウマツリ 當麻祭トウマツリ

卒川祭ソウガワマツリ 卒川祭ソウガワマツリ 卒川祭ソウガワマツリ

梅宮祭ウメミヤマツリ 梅宮祭ウメミヤマツリ 梅宮祭ウメミヤマツリ

大原野祭オホハラノマツリ 大原野祭オホハラノマツリ 大原野祭オホハラノマツリ

宗像祭ソノイカマツリ 宗像祭ソノイカマツリ 宗像祭ソノイカマツリ

當宗祭トウソウマツリ 當宗祭トウソウマツリ 當宗祭トウソウマツリ

日吉祭ヒヨシマツリ 日吉祭ヒヨシマツリ 日吉祭ヒヨシマツリ

吉田祭ヨシダマツリ 吉田祭ヨシダマツリ 吉田祭ヨシダマツリ

松尾祭マツオビマツリ 松尾祭マツオビマツリ 松尾祭マツオビマツリ

園韓神樂ウヅカガミカガヒ 園韓神樂ウヅカガミカガヒ 園韓神樂ウヅカガミカガヒ

十二月ジュウニグヒ 十二月ジュウニグヒ 十二月ジュウニグヒ

抄冬セウフユ 抄冬セウフユ 抄冬セウフユ

師走シラス 師走シラス 師走シラス

臘月ロウグヱツ 臘月ロウグヱツ 臘月ロウグヱツ

除月ゾウグヱツ 除月ゾウグヱツ 除月ゾウグヱツ

極月キョクグヱツ 極月キョクグヱツ 極月キョクグヱツ

承平 殘冬

三冬月

梅初月

春待月

乙子元朔日 狩子の

川浸餅朔日 臘八日

温槽粥 臘八日

事始 閏東八日 上八十三日

御髮上 下午日 天子のおくし

着駄の政

天智天皇御國忌 三日

佛名 十九日 廿一日

加法 天子の

師走 大寒の日禁中四方の内

土牛童子の像と立

大寒の日禁中四方の内

榎梨乃勸益 津のふゆのまゆと

寂勝寺灌頂十五日

大徳寺開山忌 廿日

寒垢離

寒念佛

寒曝

餅搗

箕和田鯉

餅花

黄鮒

鶺鴒巢

早梅

早咲梅

鹿鳥つゝ

探梅

早咲椿

寒造酒

臘梅

室咲梅

孟宗竹

早椿

室咲椿

寒竹子

年忘

歳暮市 トシゴトイハチ

年取物買 トシトイハチ

煤攤 トシキコル

煤掃 トシキコル

古札納 フルマナ

星佛賣 ホシホトケウ

年木樵 トシキコル

節李候 セウキリノボ

寶船賣 タカラフネ

正月の飾拍皆賣 お正月の飾り

曆元末 オシゴトノハシ

古くよみ

弓矢羽子板賣買

節分 セウブン

立春の前日 除夜 上司

吉田の大抜 市分

内侍所 ナシト

の御神樂 節分之夜

厄ごと

豆打

終指 オシゴト

鰯頭指 イサカシラ

厄ごと

大原雜候 オホハラ

追讎 ツイヂ

衣配 キタナ

小晦日 コモロヒ

大晦魂祭 オホソイ

七夜 シツヤ

岡見 オカミ

明松 アカマツ

齋宮 サイミヤ

繪馬 エウマ

大晦日 オホソイ

和布川 ワフガハ

之神事 ノカミ

長門国 ナガト

大晦日の夜寅 オホソイノヨ

海 ウミ

屏風 ビョウブ

海底 ウミソコ

奉 ホウ

海 ウミ

海 ウミ

荒海 アラウミ

とある

とある

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

大晦日 オホソイ

雜之詠

二季フタトウと争マカ句コト、雜也

花ハナ紅ベニ葉ハ

寒暑サムイと結句ムスビ

飛花ヒバナ落葉ラクエフ續ツグ句コト

又四時ヨシトキ不斷ツグゆる物モノ、雜也

松竹マツタケの落葉ラクエフ

米コメ 麥アヲ

豆マメ

松マツの緑キナンド等ナド

無名ムナミの虫ムシ鳴ナリ

小鳥コトリ

柀ヒキキ花ハ

桂ケイ実ミハ

村雨ムラサメ

薄ハクシラ茂モトハ

莓花メヅナ

藻花ソウハ

蓬生ヨモギ

柀ヒキキ

蛤カキ

淺茅原アサチハラ

芳ヨシ

角ツノ綱ヅナ春ハル穂ホ秋アキ

菅スガ

真蔣マシヨウ

旱ヒヤリ電イナヅナ

豕雲シウウン

清水シズミヅ夏ナツ

梅干ウメノシ

蓑虫鳴ササギノナリ

柀ヒキキ漆シ

玉タマ虫ムシ

梟スロウ

鷲シキ

山鳥ヤマトリ

都鳥トトリ

鮒フナ

鯖サバ

鰓カサガ

鹽物シホモノ

鳥トリ巢ネスト

鷹タカの喙クハ

野鷹ノタカ

離鷹リタカ

離鶉リウ

鳴ナリの羽ウエ盛セキ

梅壺ウメツボ

梨壺ナシツボ

桐壺キツツボ

藤壺フジツボ

鴨カモ杏コウ

舞扇マユアヒ

礼扇レイアヒ

鴛ウヰ栗クリ

軍配イクサヅケ團ダン

戸ドの鳴ナリ子コ

蛸トコ魚イサ同ドウ

鼈カメ

布ヌメ

布曝フササ

右大槩記之余準可知而已

追加

池上千部 長栄山本門寺 毎年三月十九日

九品佛千部 武州世田ヶ谷領眞科 九品山淨真寺 毎年四月

海苔日待 毎年三月の内三日子門浦(海苔)ひびくよる日ありし時糸川中回ゆよる是と海苔日待と云ふ

○天象 月日星 天ククク二句去

天 大圓 碧落 塵空 半天 月 異名月夜

日 金鳥 暈鳥 火輪 靈耀 星 北半 北極 太白星 流星 南半 北極 流星

七曜 二十八宿 各星之分也 日蝕 月蝕 天川

銀河 銀浪 七夕の時水辺にありて秋 又名河の時水辺に成雜と夕

と兼六外の天象 河内國に天川と云名所あり 銀河と夕面

○聳物 子よりく字に二句去三句つ

雲 霞 虹 運氣 蜃氣樓 電 霜妻 夜分

遊糸 月の暈 富士の烟 淺間の煙

松竹柳草木雨等の烟 霧ハ聳物降物而用也

○降物ふるりと手に二句去二句

雨アメ 雪ユキ 霜シロ 時雨トキアメ 吹雪フクユキ 露ツキ 雲クモ 電カミナリ 霧キリ

白雨シラアメ 雪ユキ 去ク 了ル

○神祇カミ 一句去三句終ク

伊勢太神宮イセノオホカミ 日本平余州 宮ミヤ 社壇ヤシロ 遷宮ウツリミヤ 三寸ミツサツ

長官ナガカン 社頭ヤシロ 社ヤシロ 祭礼マツルヒ 洗米アハルメ 御師ミコシ 拜殿イハヒ

祝言イハヒコト 祠ヒコ 散米チリメ 神主カミ 瑞垣ミツカキ 斗帳トウチヤウ 御供ミコト

棚タナ 祢宜ニキ 玉垣タマカキ 神詔カミノミコト 初穂ハツホ 社人ヤシロ 稜ササ

干木シノギ 湯立ユカテ 神輿カミコ 乙女ヲメ 鯉木コイノキ 幣ヘ 氏神ウヂカミ

神馬カミウマ 神子カミコ 鳥居トリノイ 鎮守チヅメ 贄ニヒ 繪馬エウマ 欄カド

巫尊ハカケミコト 尊ミコト 天子テンシ 小忌衣コミカサ 神樂カクラ 太々神樂タタカミカサ 命ミコト 臣下ウヂノカミ

木綿袴キヌタスキ 御手洗水ミテタラシ 膳ヘシ 神供カミコト 七五三ナナイフサン 鵜羽膏ウノハツキ

齊院イハヒ 賀茂カモ 齊イハヒ 潔斎イハヒ 忌竹指イハヒ 夫大臣ウヂノカミ

神宿カミヤド 川カハ 稜ササ 御枝川ミエノカハ 音ネ 簀ス 形カタ 代カタ 叩首ウツク 拜イハヒ 了ル

神樂 大前張 小前張 星記
阿知女 掾物 哥里神衆

かきくろ 舟後

起請 誓言紙 神文

伊勢講 木々講 叅宮

非神祇

惠方 エウタ

年徳

男山 オウヤマ

放生川 オウシウカハ

龍宮 リウウクウ

橋姫 ハシヒメ

山姫

精進 シヨウジン

佐保姫 サホヒメ

龍田姫 リウテンヒメ

○釋教 三句去三句捨

諸佛の名 シヨブツノナ

諸菩薩の名 シヨサツノナ

佛祖の名 シヨブツノナ

諸佛經の名 シヨブツキヨウノナ

諸僧法衣 シヨウボウホフ

諸の官名 シヨノカンナ

諸宗佛具 シヨウソウブツ

羅漢の名 ラクワンノナ

諸山号院号 シヨヤマガウインガウ

寺 テ

門跡 モンゼキ

僧正 ソウジヨウ

念佛 ニゴフ

舍利 セリ

精舎 シヨウヤ

堂 ドウ

上人 ジョウジン

題目 トウジ

數珠 スウシュ

伽藍 カラン

和尚 オウショウ

塔 トウ

和讃 ワサン

拂子 ホウシ

庫裏 クラ

長老 チョウロウ

談義 タンギ

經 キヨウ

木魚 モウキョウ

方丈 ハウチョウ

僧都 ソウト

法問 ホフモン

五鈷 ゴコ

衣 イ

眠藏 メンゾウ

能化 ノウケ

論義 ロウギ

獨鈷 トクコ

客殿 キヤクテン

笛 フエ

所化 ショケ

灌頂 カンテイ

帽子 ホウシ

輪藏 リンゾウ

出家 シユツケ

鉦 カネ

觀念 カンネン

燕尾 エンビ

行堂 キョウドウ

主座 座禪 厨 頭陀 宿坊 沙門 悟道

袈裟 僧 入定 沙弥 禁足 素絹 五戒

坊 衆徒 禪定 天蓋 破戒 護摩 尼

血脉 坐具 持戒 生飯 花曼 頓寫 諷誦

諷經 花足 看經 五輪 鉢扣 常香 彼岸 石柱

引導 塔婆 順禮 線香 錫杖 彼岸 石塔 地獄

鉢開 抹香 同向 卵塔 因果 六道

功德 非時 齋 流轉 迎雲 來迎 極樂

曼陀羅 作麼生 結伽趺座 補陀落 須弥座

三界六道 薦僧 虛無僧 吳秋百去 百萬遍佛

非秋教

煩惱 坊主落等の釈の詞 釈よりりて 鐘 書記
碩学 醫者の釈名 諸職人の釈名 法印法橋史

○ 兩部 并然りも 釈ありも 二句を
二句は 一一句も 二句を

帝^テ秋^{キウ}天^{テン} 辨^{ヘン}才^{サイ}天^{テン} 多^タ聞^{ブン}天^{テン} 持^チ國^{コク}天^{テン} 增^{ゾウ}長^{チャウ}天^{テン}

廣^{クワウ}目^{モク}天^{テン} 聖^{セイ}天^{テン} 大^{ダイ}黑^{コク}天^{テン} 毘^ヒ沙^{シャ}門^{モン}天^{テン} 摩^マ利^リ支^シ天^{テン}

如此天と呼ぶ神 此外も西部
山^{サン}伏^{フツ} 燕^{エン}尾^ビ 擣^{カク}粉^フ 鬼^キ心^{シン} 擣^{カク}指^シ
金^{キン}剛^{コウ} 槍^{セウ} 槍^{セウ} 槍^{セウ} 槍^{セウ} 槍^{セウ}

立^リ顯^{ケン} 通^{ツウ}夜^ヤ 兩^{ルウ}皮^カ形^{ケイ}箱^{コウ} 月^{ゲツ}待^{テイ} 日^{ニチ}待^{テイ} 庚^{コウ}申^{シン}待^{テイ}

休^{キウ}私^シ 向 西部

戀^{コイ}之^ノ詞^ジ 恋之詞 但音同の長を二句云ふ後々
戀^{コイ}夫^フ 妹^{イモ}許^{キョ} 各^{カク}氣^キ 玉^{タマ}章^{チャウ} 惚^ホ婦^フ 誦^{ソウ}

女^メ房^{フウ} 二^ニ方^フ道^{ドウ} 妹^{イモ}脊^{セキ} 娘^{ニョウ}情^{セイ} 媒^{バイ} 薄^{ハク}情^{セイ} 形^{ケイ}身^{シン}

姿^{ソウ}鏡^{キョウ} 仇^ウ 娘^{ニョウ} 契^{ケイ} 内^{ナイ}儀^イ 二^ニ方^フ心^{シン} 紅^{ベニ}脂^シ 嫁^ケ

恨^{ウラミ} 妻^{ツメ} 腰^{ウソ}元^{ゲン} 門^{モン}立^{テイ} 口^ク紅^{ベニ} 妬^{ソコ} 妾^{セウ} 咒^{ジュ}

花^{ハナ} 娠^ニ 難^{ナン} 面^{メン} 爪^{ツメ} 紅^{ベニ} 孕^ニ 占^{ウラ} 女^メ 花^{ハナ} 智^チ 待^{テイ} 佗^タ

白^{オシロイ}粉^コ 誓^{チカヒ} 文^{モン} 訛^{ウソ} 入^イ 智^チ 袖^{スベテ} 引^{ヒキ} 化^ケ 粧^{シヨウ} 思^{オモヒ}

綠^{キナンド} 忍^{ニン} 密^{ヒソカ} 夫^フ 伊^イ 達^{テイ} 新^{ニイ} 枕^{マク} 俤^{オモイ} 帷^{カサキ} 鷹^{トウ}

傾^{カガミ} 城^{シロ} 心^{ココロ} 中^{ナカ} 長^{ナガ} 枕^{マク} 幃^{タテ} 秀^{ヒメ} 戲^{ウタガハシ} 遊^{アソビ} 女^メ 神^{カミ} 祈^{イノチ}

五十一

手枕 耻 咄 戲女 下焦 枕香 嬖

白人 十話 枕繪 踊子 出合宿 口説

振袖 野郎 口舌 流目 色狂 袖留

陰間 口吸 ぬるるん 水揚 飛子 頬摺

指櫛 尻目 つるひ 舞子 水祝 離別 金剛

忘らるる 物怪 亡八 辻占 懐妊 執り

妓有 灰占 悪門 花車 坊主落子 私語

若衆 牽頭 鷓言 目元の塩 念者 辻君

立名 前髪 前よりより 惣嫁 睦言 婀娜

恋慕 近はるる 夜這 指切 腕突 入癪

身と焦 揚屋 髪切 股突 密通 若後家

後添 湯女 白拍子 結ぶの神 女衞

千束の文 諸國傾城町の名 人目の関

人目忍ふ 手とをめる 目とをせ 尻をめる

子とむねの仇ろくへ 下紐解 身とみ

寐乱髪 垣間見 垣間の女侍の侍り

錦木 二尺さうりの木とてまき

帯 女のほしとて

空炷 さきま

虫の印 いりりの虫とて女の印は

近 かた

細布 この細布とて

後朝 あき

衣 おの別れ

非意詞

佛	早乙女	干詐	中居	髪
日月星と祈る句	替女	偽	歎	所縁
禰	市女	後家	宿執	奥様
	賤女	下女	夢	櫛
	学の文	衾	帯	三縁
	旅の文	天乙女	半婢	鏡
			乳母	枕
			泪	乙女

○無常之詞

并哀傷 二句去一句も我 歌も二句也

右の分哀と非とよも句ふより無に旅へ

鳥辺野 九野 劔の山 三途川 魂結ひ

灰人 灰寄 葬頭河原 白骨 骸體 冥途

龕 極樂 中陰 忌中 周忌 幽靈 人魂

追善 追悼

○ 迷懷之詞 ニヨクニニヨクニ

寡 白髮 三輪組 おもむき 貧 浪人

眉の霜 侘 病人 苦 継子 苔衣 乞食

世と捨

○ 非迷懷詞

愚 賤 山賤 坐頭 瞽女 紫戸 尉 翁

草庵 釣翁 賣炭翁

○ 人倫之詞 ニヨクニニヨクニ

祖父 父 兄 姉 我 息子 娘 婿 祖母

母 弟 妹 妻 子 孫 女房 伯父 媿

舅 夫 親 彦 獨 從弟 伯母 姪 姑

聖賢の名 實名 俗名 僧法師の名

傾城白拍子野郎の名 此亦準してあるべし

非人倫之詞

帝 皇女 本院 新院 仙洞 太子 宮

親王 門跡 大君 仙人 人間 一門 凡夫

眷屬 二人 三人 大勢 雜兵 衆生 典藥

外科 本道 老若 鍼醫 入道 百性 旦那

敵 かゝ兒 俗 不仁 亞龍 思同志 代官

目代 民 目付 留主 居 奉行 身 某 私

地頭 門主 橋守 門守 花守 山姫 寒山

拾得 僧坊の官名 釈祖師の名 俗官名

苗字 守の字 師 醫師 佛師 繪師 鑄物師 是等也

者 如者 使者 使者 佛者 佛者 是等也 此亦準してあるべし

弁敷まある
りの甲のく

○居所之詞
之白表と句修く
白ふても控ん

家屋 宿 菴 軒 書院 廊下 寮 圍
亭樓 花 椽 小屋 博風 爐 壁 窓
床礎 塀 鳩居 鳴居 棟 簷 闕 闕
梁隣 天井 座鋪 閨 玄關 部屋

余ハ准一ある

居所用 本居不に打紙終ふ

村里 筑山 坪の内 泉水 路次 置戸

外面 井戸 井筒 脊戸 簾 障子 鈎簾

翠簾 暖簾 土蔵 欄干 田
居あすの地町をくハ

庭 居不ありく
非居所とくハ
余も准一ある

柱 古書ハ非居所とくハ
杖柱 檣柱 ちと居不ありくハ

非居所詞

内裡 皇居 御所 御所 非居所 神社 佛閣

非居所 千里 邊土 市場 軍場 鞠場 等也

○山類之詞 一句は二句は

山 峯 嶽 岨 岫 谷 峠 高根 坂

尾上 九折 山姥 山姫 瀧 山関 峯坂 足橋

葛城 葛城 久米の橋

山類用 本山の如く

岡 嶋 岨 泊瀬 水邊 関

非山類詞

吉野 島國 瀧川 杉人 淡路嶋 三島

越路 仙人 山賤 瀧津川 氷室 山櫃

山鳥 山桃 龍田川 山梨 逢が杉

余ハ州一志ス人

○衣服之詞 二句は三句は

三二

裳モロ 小袖コソド 衣裳イロモノ 縹ヒロ 白無垢シラカク 被カキ 袷アサギ

襦ス 袂タビ 帷子カビシラ 紙子カミコ 衾フク 襟カサ 褌フク 袴ハカマ 布子ヌメ

單物ヒラモノ 袖スリーブ 浴衣ユカ 衣紋イモン 産着ウツキ 羽織ハオリ 襦ス

此亦不新是古の物也

非衣類詞

袈龍キョリウ 直垂シタケ 狩衣カウイ 素襖スウツ 袷アサギ 奴袴ヌハカマ 袍ホ

大口袴オウチハカマ 欄ラン 小忌衣コノセイ 白弦シラハリ 緋袴ヒハカマ 經袴ケイハカマ

纏マキ 宿直衣ヤクシツイ 純マキ 淨衣ジヨウイ 如裝ニホ 衲衣サツイ 蓑カサ 帶オビ

直衣シツイ 上下ウヘノヘ 肩衣カタクサ 絆切ハチキ 水旱ミヅカ 葛袴クワハカマ 水衣ミヅイ

十徳ジュツトク 篠掛スガカ 直綴シツヅ 居士衣コノセ 立付タテツキ 襟卷カサマキ

掲布カキフ 帽子カピ 袴ハカマ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 胸絆ムネハチ 股引コウヒキ

頭巾カウシ 足袋タビ 三尺手拭サンサウテウシ 法被ホウビ 褌フク 褌フク 蓑カサ

道服ミチフク 羽衣ハネイ 裙袴スベハカマ 禪ゼン 襦ス 緞帶ケンタイ 藤衣フジイ 夜服ヨフク

禪ゼン 素鞆ソウモロ 喪服モウフク 右宦服ウヘノヘ 祭服サイフク 僧衣ソウイ 喪服モウフク 礼服レイフク 常服ジョウフク

五十八

生る用せざる物皆非衣類

○水邊之詞

之句をこりけり

蛇籠	我	津	淀	海
水屑	樋	浪	渚	浦
濱荻	寛	泡	沖	濱
海草	流	潮	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井	沼	瀬	池
松島	戸	杜	洲	澤
	海士	若	浮木	堤
	漁火	龍島	淵	流木
		橋	崎	湊

蓆蒲 貝類 釣具 魚の名 水鳥の名

漁の名 船の道具 辛崎の二ツ松 蓮 萍藻

非水邊詞

天の浮橋 夢の浮橋 白川の関 月の出汐

室の八鳥 難波寺 泪の淵 軒の玉水

鵲の橋 布曝 志賀の松 かまむ川 三瀬川

憲の海 蓮の上を契 硯水 天水 岩船

氷柱 宮屋 干魚 干貝 苗代 田 鹽

○夜分之詞 一むいも後

月 星 曙 宵 暗 箭 蚊 鼠 寐言

寐枕 眞 炬 時 晚 銀河 明星 日待

七夕 横雲 宿妻 龍灯 鵜川 行燈 初雞

胡狩 寐鳥 燈籠 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺

燭 短檠 手燭 假寐 居眠 夜着 燈明

送火 杖々 深更 化物 夜發 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛士の焼火

星とこあら 拙入 住吉の市 星月夜所名

の時非 追儺 除夜 大晦日

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月出 芋火

今日の月 朝の月 明をるれ 常燈 昼の月

暮の月 夢現 夢幻 夕月夜 有哪入 残月

余ハこれヲ准シテ云フ

○食類之詞

食物ト 飲物ト 品替りて 二句在二句後

○旅躰之詞 各々其ノ二句在二句後

門出 餞別 乘掛 輕尻 蒲團張 馱賃
木賃 跡附 本陳 旅籠屋 出女 馱荷

泊好 宿取 川留

○生類之詞

虫ト 虫 鳥ト 鳥 獸ト 獸 同生類ニ句在
虫ト 鳥 獸ト 虫 鳥ト 獸 二句在二句後

○植物之詞

木ト 木 草ト 草 同二句在二句後
木ト 草 竹ト 木 二句在二句後

不高不低植物

本つゝも葉もも折つゝも
二句を二句ハ成るべし

藤 萩 欒 茨 荊 葛 葡萄 苧 牡丹

枸杞 山吹 卯花 五加木

○書射之詞 二句を二句作るべし
一句を二句作るべし

文字の尊 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯

墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀

手紙 文 五章

焔 燦 灯 爐 巨燧 火鉢 炭 竈等也

○火射之詞 二句を二句作るべし
二句を二句作るべし

○風射之詞 二句を二句作るべし
二句を二句作るべし

風鈴 扇 團 吹 芦の声 杖 杵 杵

余も准一もあらず

○病射之詞 二句を二句作るべし
二句を二句作るべし

藥灸 鍼 入湯 按摩 醫者 等也

余ハ准一志ス

○ 器財キナカ 財ジニ器材付ても之ノノカテ儀ト云ヘク

武具ニ武具

家具ニ家具

鍔物ニ鍔物

硯スニ墨 文臺ス

杖シ日新ニ二句去
二句去コ

○ 支躰シニ支拵付ても云ヘク

○ 武具ニ筆 棋盤 庖丁ハカテ

武具ニ筆 棋盤 庖丁
おうのうてふ有ても
打撃ても若クハ云

顔ヲニ首 目 鼻 口 耳 颰ツ

○ 支躰シニ支拵付ても云ヘク

支躰ニ支拵付ても云ヘク
と云へもおわく打ても同ガ
わへ日新ニ句去二句
去

打冠 爪 腹 脊 中

此ハウケクニ付ても
打撃ても若クハ云

○ 名所ナナニ名所

名所ニ名所有ても云ヘク
有名名所有ても二句去ニ句去

同國 同所

伊勢ニ陸奥

須磨ニ象牙

伊勢ニ陸奥

伊勢ニ陸奥
同字の事也

○ 字去之部 同字の事也

色イロト五 色イロト六 色イロト七

三句去 色イロト五 色イロト六

色イロト五 色イロト六

色イロト五 色イロト六

色イロト五 色イロト六

色イロト五 色イロト六

如此訓音コトニ如くく皆二句去

如此訓音コトニ如くく皆二句去

① 今 幾 出 入 經 時 呀 遠 問 果 張
 ② 袖 外 其 初 添 遣 着 付 就
 ③ 掛 忘 置 止 求 外 程 邊 經 時 呀 遠 問 果 張
 ④ 方 分 追 留 通 外 取 解 鳥 路 近 我
 ⑤ 兼 渡 多 音 小 思 落 押 折 替 通
 ⑥ 飯 割 侘 哉 川 風 替 通
 ⑦ 吉 夜 立 為 絕
 ⑧ 我

小 迴 來 打 成 識
 當 事 間 浦 猶 次
 ① 雙 子 音 中 鳴 鳴 無 波 並
 ② 頓 遣 野 上 虫 無 內 上 憂 請
 ③ 振 吹 撲 登 殘 吳 雲 憂 請
 ④ 有 吹 撲 登 殘 吳 雲 憂 請
 ⑤ 明 深 山 登 殘 吳 雲 憂 請
 ⑥ 淺 跡 逢 合 相
 ⑦ 心 待 又 迄 草 請
 ⑧ 木 迄 草 請

六十四

①木際聞切消来②行③路道

木身見皆④下新鋪⑤日人

引⑥木物持⑦住末捨過濟

○同字別吟

御酒御田鶴田大夫志賀賀仙臺臺

代官代開白關南無無防風防傘唐

⑧二⑨一⑩二⑪慶⑫慶半天⑬夜半筑紫紫輕重雙

代物代由來由奉行行撫子花撫子春日春日

戰戰戰中風中風中人の目二秤の目々々今日

一町目二天目如比の敷之但之我も之等の出来は之等のあり

○付字之事

家ト家ト折と廻るゝも家土産家樽家の子の

有字とありて家の字とるを朝ニ朝日山星ニ星比目

申ニ神子呼ニ呼子鳥乾ニ乾鯉雲雲見草

蘭 蘭 奢 侍 雞 卵 二 雞 頭 花 紅 紅 黒 黒 黒

地はあうりても又字の出入り
よりく 別吟 本吟

○賦物之事

祖師貞徳法門を之申垂れハ 穢物の事 連歌
はき習み事あるとを来能階にありのこく
我をのりく我のほほほのりくたの花の念ありハ 花俳諧
之連歌まて月の夜有ありハ 月俳諧之連歌あり

そ序の糸とたき 穢物の事 連歌
あるは正保三年丙戌三月十五日於花咲亭定
らぬに掛ても世にあり事ありハ 花俳諧

面白うりて掛ひくハ 花俳諧
まの字ありハ 辨りの文字と 壺とハ 字と 何思と取へハ ハ 花皿 壺皿 ハ 梅何ト取へハ ハ 梅壺と名ハ 訓言あり

春の月一妻の二日月一妻の有明一妻季一

以上四也折去夏冬同断

他代の季より一妻秋をよりしてもの

心の月 胸の月 月次の月 真如シンニヨの月 月草

寺号ジカウ 山号 付字テモ 星月夜ホシツキ 月の氷 秋之

たてハ秋生秋十月秋泊の月 星月夜ハ秋之と格同非月

思ふとすれ月より 月之雪霜氷秋也 月之氷 秋之

月の雪霜氷秋也 月之氷 秋之

月之雪霜氷秋也 月之氷 秋之

冬は光水皆秋之 秋之月 夜分相 秋之月 夜分相

非夜分 月明果 秋之月 夜分相

月明果 秋之月 夜分相

月讀神 月讀社 秋夜分 夏の夜は霜 月之成

月の秋のまゝなる 月之成 夏非降

○花之部

花四也折三宛 花の字 三句去 初花 待花

花盛 花見 花れそと 花房 花笠 花曇

花守 花に危 花鳥 花車 花桶 花瓶

花の妻 花生 花軍 花入 花園 花の笑

花の山 花の宴 花の湯 花の姿 花の宿

花の友 花と友 花の匂 花と君 花に懐

花の不 花のま 花に電 花のる 花に懐

花の縁 花飛 花が 花の唇

花の葉の花 樹の花 花の葉 花の香 非舞

花の浪 非水 花の雲 非降 花の風情 花の浪と

花鎮 神祇也 花筐 歌也 花籠 同上 花生の時ハ

年の花 花の妻 歳旦也 正花也 花鳥 西花はつて

花の都 花浴 中花 花舞 意々

褒美の花

花の都 花浴 中花 花舞 意々 花姫 同上 花心

花靴 花鯉 糸花 花の白 花衣 作花

紙花 花棠 花ののぎ 花の緑 花乃袖

花の袂 花真壺 紋の花 繪の花 詞の花

花の姿 染物の花 織物の花 花の...

け敷植物に二句の花と云ふ皆春 ト、花名

花皿 正花也 檜皿の時ハ 非正花 正花を意味する 花庭 ト

織る袴とハ掛物に二句を むのたねとハ袴と云ふもの

花神樂 花の香に 折去

花の白 折去 花の散 花の散ハ不付

花の白 非風折

花に付尚同道具不付 不付と云ふは不付也

花に吉非付 吉非ハ

花に花 七句去

花は名所結句折去 折去ハ

花は月結句 折去 花葉の花 折去 花葉句 折去

夏—寫目より表の
花の定生
おとろひのよみそつや看
内ハズカクシバ

他の季乃花

夏の正花 餘花 若葉の花 郭公結句

秋の正花 花火 おしりと花

冬の正花 飯花 花足袋 餅花

雑の正花 花紅葉 飛花落葉ト結句

余ハ白紙よりつやをもる

非正花分

花の厚し 本名縹帽也 花田芋 同上 花の厚し 赤き惟
わこまき

花丁子 湯の花 花野 花壇 同上 糞の花

火花 灯乃花 丁より 菜のたまの 端 飢

浪の如 雲乃花 深色のたまの 藍の 色く 白紙 皇紙

おまかじ 馬の鼻 花子の程云 花町の親王

花園院 花頂山 花川戸 如此氏苗字人名官名 研名ゆれも非正花

花王ハナノミ牡丹ボタン

花の富貴フクイ同上

花の隠逸カクツ菊キク

花の兄ケイ梅ウメ

花の君子クニシ蓮レン

花の宰相サハク芍薬シャクヤク

六ツの花ムサシ雪ユキ

晴ハレまる花ハナ海棠カイドウ

夕ユフ白シロ

三ツの花ミツ霜シロ

未摘ミツク花ハナ紅ベニ糸イト

花ハナうのウノ真マコト菰モ

四ツの花ヨツ紫陽草シヤウカク

花ハナがガ

鉄テツのノ異イ名ナ

いろはあきふたふた

(10)

家イヘ

いよんしあは

いし林ハヤシ

いしおのりあは

山ヤマ取トりて

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

いよあき

オウソウカシキヤウクニルカ 兄ニ才ニ面を立降 立用

オウマユ一紙を穿つる のあこささありオキタカ わびとさオキタカ

オウカウ一薦の香 わびとさ二句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 下の内二句 酒ニ句 酒ニ句 酒ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

オウカニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句 弟ニ句

おひくく一^只香の^楽 ^{おひくく} ^{おひくく} ^{おひくく}

おひておせ一^うつめ ^{おひて} ^{おひて} ^{おひて}

おどろく一^い ^{おどろく} ^{おどろく} ^{おどろく}

おほよそ考一^か ^{おほよそ} ^{おほよそ} ^{おほよそ}

おやとあがく一^株 ^{おやと} ^{おやと} ^{おやと}

おひくく一^い ^{おひくく} ^{おひくく} ^{おひくく}

おひくく一^い ^{おひくく} ^{おひくく} ^{おひくく}

う^云 ^う ^う ^う

か^そ ^か ^か ^か

か^さ ^か ^か ^か

か^と ^か ^か ^か

よ^す ^よ ^よ ^よ

よ^み ^よ ^よ ^よ

よ^み ^よ ^よ ^よ

玉虫の巻一 のり 迷二 を 為三 り 人 が 業 も ら れ り 未 あり

迷二 ん 人 云 詞 は 多 言 は 連 修 と ま

そと云ておえ二 を そ と を 言 ふ そ の う こ 一 の

そと云詞三 三 十 四 十 六 十 五 年 の 時 に そ よ く 本 一 巻 一 節 に あ る

そのあう二 き 一 居 敷 の 時 に そ う の 一 條 あ ら は せ ぬ

ほじ七 者 あ ら は ほ ん 二 言 ほ れ を 三 き り ぬ

ほ二 き の 園 一 ほ ん が 二 變 れ を 三 老 を 云

ほ二 り て よ 光 二 去 為 ら 二 一 ほ り と 云 ふ 一 そ の に

ほ二 り 下 の 白 二 上 の 白 ほ り 為 ら は ほ り と 云 ふ 一 そ の に

ほ二 ら り 一 振 口 に 風 辨 は 孫 ち け 人 一 傳 人 の

あ二 ん ヒ 白 去 為 ら ハ お ち れ あ る ホ 二 白 去

あ二 よ ひ 一 や う う う う う う あ る あ 免 は 一 不 礼 あ る

あ二 つ と 一 二 あ ら ひ つ つ あ は て ホ 二 白 去 の 時 に ち ぎ ん と 云 ふ 一

ほ二 ら り 成 の 字 を あ ら ひ だ お ち れ あ る あ 免 は 一 不 礼 あ る あ ら ひ つ つ あ は て ホ 二 白 去 の 時 に ち ぎ ん と 云 ふ 一

らん 二るま 一 ありハ 一 面去
らんらん 二 日 一

らんらん 二 らぬ 二 耳 一 二 去 一 らぬ 二 去 一 ありハ 一 られた 二 去 一

らん 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

むべ 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

むさび 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

うら 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

うかい 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

う 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

うけ 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

う 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

の 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

く 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

くれ 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

や 二 去 一 二 去 一 二 去 一 二 去 一

や〜七白を 為り八折 や〜ぬ日あり

やよト云ト云トニ これら〜の糸

やまあいの袖 山生と麓

やまらちあふに 一 染めの糸

ゆ 一 白糸 為り八折

ま〜に 一 糸 早 去

まゆ 一 糸 糸 一 糸

ゆらりと 一 糸

ゆらりと 一 糸

ま〜りく 一 糸 巻 面

ま〜りく 一 糸

ま〜れすき 一 糸

ま〜れすき 一 糸

や〜り 一 糸

や〜り 一 糸

け〜り 一 糸

け〜り 一 糸

お〜れ 一 糸

お〜れ 一 糸

下知の袖 二 糸

下知の袖 二 糸

ふすねの麻 一 糸

ふすねの麻 一 糸

ゆ〜り 一 糸

ゆ〜り 一 糸

あ〜り 一 糸

あ〜り 一 糸

くそ 二百 菊 二句 去

えり 一 海老若縁 去 わる

多くはむ 一 菊 二句 去

えん 一 神 二句 去

てあう 二 菊 二句 去

てふ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

く 一 菊 二句 去

さハト 一 菊 二句 去

され 一 菊 二句 去

さ 一 菊 二句 去

き 一 菊 二句 去

き 一 菊 二句 去

ゆ 一 菊 二句 去

夕 一 菊 二句 去

し 一 菊 二句 去

え 一 菊 二句 去

て 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

わ 一 菊 二句 去

く 一 菊 二句 去

さ 一 菊 二句 去

さ 一 菊 二句 去

さ 一 菊 二句 去

き 一 菊 二句 去

き 一 菊 二句 去

ゆ 一 菊 二句 去

夕 一 菊 二句 去

せ^一 せり^二 す^三 せ^四 せ^五 せ^六 せ^七 せ^八 せ^九 せ^十 せ^{十一} せ^{十二} せ^{十三} せ^{十四} せ^{十五} せ^{十六} せ^{十七} せ^{十八} せ^{十九} せ^{二十}

す^一 せん^二 七^三 五^四 去^五 為^六 り^七 ハ^八 折^九 す^十 あり^{十一} 口^{十二} 折

する^一 ち^二 せ^三 せ^四 せ^五 せ^六 せ^七 せ^八 せ^九 せ^十 せ^{十一} せ^{十二} せ^{十三} せ^{十四} せ^{十五} せ^{十六} せ^{十七} せ^{十八} せ^{十九} せ^{二十}

す^一 べ^二 べ^三 べ^四 べ^五 べ^六 べ^七 べ^八 べ^九 べ^十 べ^{十一} べ^{十二} べ^{十三} べ^{十四} べ^{十五} べ^{十六} べ^{十七} べ^{十八} べ^{十九} べ^{二十}

す^一 し^二 し^三 し^四 し^五 し^六 し^七 し^八 し^九 し^十 し^{十一} し^{十二} し^{十三} し^{十四} し^{十五} し^{十六} し^{十七} し^{十八} し^{十九} し^{二十}

す^一 べ^二 べ^三 べ^四 べ^五 べ^六 べ^七 べ^八 べ^九 べ^十 べ^{十一} べ^{十二} べ^{十三} べ^{十四} べ^{十五} べ^{十六} べ^{十七} べ^{十八} べ^{十九} べ^{二十}

一文字七^五 去^六 訓音替り^七 五^八 去^九 単編^十 掲^{十一} 本^{十二} たる

二文字^一 面^二 去^三 訓音替り^四 七^五 去^六 三^七 の^八 字^九 ム^十 十^{十一} の^{十二} 字^{十三} マ^{十四} ラ

二^一 の^二 字^三 ム^四 同^五 折^六 百^七 子^八 万^九 各^十 折^{十一} 去^{十二} 訓音替り^{十三} 面^{十四} 去^{十五}

春^一 字^二 五^三 去^四 季^五 字^六 五^七 去^八 回^九 季^十 各^{十一} 同^{十二} 折

意^一 の^二 字^三 四^四 折^五 去^六 非^七 意^八 意^九 の^十 字^{十一} 面^{十二} 去^{十三}

月^一 七^二 五^三 去^四 月^五 次^六 の^七 月^八 の^九 字^十 二^{十一} 去^{十二}

花^一 四^二 折^三 去^四 花^五 の^六 字^七 ハ^八 二^九 去^十 躰^{十一} り^{十二} 花^{十三} 妻^{十四} 涉^{十五} 去^{十六} 涉^{十七} 去^{十八} 氷^{十九} 妻^{二十}

涉る星 涉る改まき 秋の月半日の 涉る菊 菊のつぼみ

涉る秋 初雪涉る 浅雪涉る 霜の涉る冬

歌ニ音ニ 和分の分 連歌 俳諧 風雅 文徳のた 各書

侍衆の 種冊 色感 小と 四と 備する 各書

伊勢の國 いせ鷹 いせ海老 いせ狸 いせおけい いせち

いせ千し かづの教安おののせき一抄也
同格式六十六をよむ同抄

東西南北 い言字 初一音一抄也 世書簡をうたひて
お城てもよむ

春のまよ 春のまよ 歩く 町も 春も 日也

虫のまよ 春のまよ 歩く 町も 春も 日也

春の一巻 春のまよ 歩く 町も 春も 日也

春の菜 初春 白尾 春 樹春

毛とらふ 羽衣ひあふ 夏 小春 初春 荒春

山別道 秋 春のまよ 春のまよ 春のまよ

四季

貞富

昔や藤おのむ都をよめつゆの道
蛇と先へ一航深しりの形
若き木に秋を塗るう若き若葉
かすきくや置るのこそよき言の松

三二物

貞逸

里林一山六根ふ紅葉 物
尚多きうなる下戸ハ袋の目
月の宮一巻づつ巻お づ
のまふは皆巻候へたるうひ

文佐

表句切字のり

かやぞ

うよわり あり あり

さぞあそ

あれ こと あふ の六 いく

いさ いざ いのそ ても ち道 らー らわ

らん 見ん せん せん いづ道 いのみ

いづい いづこ ちぞあ かあ ちづ

きり ち路 あり くの 早のぬ ち咲きぬ ちみ あふりの ち

武の部

やの部

首我のるにひらう、男外貞雨

子日ひや格れんを、掌乙牛

めゆくと木魚の習うちまも

芳雨初雲あじわく柄に成すま

芦遊

まよれ、病なきも異あさう

鱗人の状なきをそくやむ、湖遊

長勝八巻、一松の茂むか

一雲橋のどれれや、桐直

む念も日随く思ひ、其山

まあや弁に曲くぬ、孤遊

白面に纏くも、藤里

陽をそけく、煙、佛珊木

まうく、木も清上、其木

系、舟、林のまれの、所船ト

初水と通て、更山、竹、文竹

濁流、方、竹、竹、竹

ま、流、流、流、流

子、出、出、出、出

源、巴、山、山、山

魚、可、色、色、色

あ、柳、柳、柳、柳

あ、柳、柳、柳、柳

鳥山

博も二條子ち柳うれ鳥山鳥山古心二廿日ゆやワ一の花新子新勇

曇々のふかくりりぬ藤一風光一若々一ま一瀬流一松一雨

人のおまをえてお一踊一掌一文一月一尾一花一の一城一と一ん一志一文一哥

目振一子一松一足一歩一を一流一伴一水一立一秋一や一ん一も一瑞一の一糸一五一文一貞

多一赤一の一肩一も一か一ま一に一枝一中一松一童一梅一と一あ一藤一と一ま一の一風一の一危一閨一

早一ま一に一い一れ一中一流一ま一水一風一車一は一り一ま一あ一こ一を一流一持一の一声一琴一山

深一い一と一こ一と一ま一と一と一社一丹一若一角一暢一ぬ一女一の一舞一や一面一合一の一花一淵一柳

黒一百一合一を一流一の一姿一水一翠一路一七一夕一風一と一流一は一く一世一の一喜一悦一山

太一名一の一目一も一水一妻一の一入一日一也一百一薇一月一也一沖一あ一の一流一さ一小一紅一苔一菜

流一日一也一一一日一流一お一流一の一碑一蓮一舟一都一の一梅一の一白一ひ一や一登一所一午一雞

一一紫一と一く一麻一か一ま一る一柳一也一秋一空一梅一咲一や一手一當一風一雲一た一ち一ま一り一文一萱

む一錦一を一あ一ら一ち一あ一く一ぬ一具一錦一秋一を一柳一や一宵一小一若一の一果一彩一柳

太一名一の一衣一具一の一菊一の一手一柳一也一柳一遮一也一秋一の一後一の一り一や一宮一の一花一花一隣

日一白一漕一舟一の一流一を一流一酒一浪一を一食一の一果一や一花一枝一盛一賀

あ一ら一と一今一あ一ら一つ一と一も一紫一也一延一山一桐一中一や一木一の一葉一吹一の一花一盛一賀

全

消一流一不一常一同一や一ら一む一の一名一市一寶

上州七景

蕙好日秋金盃也も早も釣浦

傘の重しを枝に寄るや 透竹

二三の礎を砕き存くも更迷

心よりむくも花や羽枝も 蒼州

一輝ハ菊おわりの甘きハ九草

名月や花枝のぬあはかき 芦葉

雪の梅風ふよのちの藤の杉雪

首飾や似合ぬ先後の鏡まう 芳州

秋の松風とけハ枝のうら扇風

膚をや波辺ふけよ露のる 永州

風きて目おりのの露露ハ松露

才氣やわらふはのあきん 齋州

花葉はの露露ハ花の露ハ芦洲

降るが花よわらふ花の白 東州

柳とて花葉はの露露ハ花の露ハ羊州

松のや花枝の園の露のる 羊州

柳とて花葉はの露露ハ花の露ハ田兼

菊畑や子持のきよた百葉 客廳

花葉の可も露の成りの名盛山

春物やまるとまると花の尻 文子

多くは花をぬる花が小 時交

葉の花や舟ひらくも花の在 苦魚

初まは花の中へ花をよみ 胡統

春のあはれや花の役より 斗醉

花の露の朝もまけ白し 亭松

煙の香も花の露をけ花の 若鴨

あつら花葉の度る折る 好時

花の香も花の所や 呼の和山堂

花の露は花のる折る 山堂

教人や思も花を花の山童

花川の曲く折る花のる山色

白くは花の露も花のる 新石

中々大種ありきりく改まらば 公諸山 呂竹 近山 近山

道のみでんり内斗早うり 全 好竹 載後スナ 好竹

悟くて道の東に茶坊也 全 原月 石州ツカノ 原月

仍まらば六か 全喜水改 原月 全 原月

白面にまかする 全 曉山 全 曉山

ちや 全 柳系 全 柳系

思ふ 全 柳系 全 柳系

思ふ 全 柳系 全 柳系

思ふ 全 柳系 全 柳系

近山

里風

素兄

芦洲

美鳥

其國

主原

月峰

管竹

桐

龍

可水

笑

友里

友之

素石

月やめはり

白翁

三聲

虎山

友里

友之

素石

素石

今あると傳はれしる皇女や泰山と晴や雲のふりて其趣

むすそと向と雲の目の横る矢田芦睡名月や他旅のふりて其趣

勝つ勝つかゝるをふりて松吉井松甫初交のふりて其趣

一葉は初葉折り初ふりて岸松を解くもす富を初交富旭

秋はて遠くは高葉るを松川をまはれもふりて其趣

あなれへのふりて保水味を磯地の高葉るを初交

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

初交初交のふりて初交初交のふりて其趣

野上

矢田

吉井

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

野上

矢田

吉井

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

野上

矢田

吉井

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

其趣

澄の美色清くをまらる用和

暁の光をまらる用和

陸尾陽の扇かして清く南芦碩

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

面の日は移ると、秋懐半交魚

秋懐半交魚

振袖の襷も夜を土用下其月

初よりをまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

あまの月沖の煙をまらる友至

かくもわふ心切心一橋梅東里 徒老(老)の日はあまなり 深次 松岸

柳舟の影ひも凍 舟も水難歌 松の風園に恨まふ事や 舎牛

夢よあはれや 萩の縁友之 とも閉て庭の風もなや丸 芦夕

風やいあくき 藤の表 芦魚

つり 桃井氏

新田ふ久と月たりかんとを 湖雲 仍あゆまふおはるまふの月 万壺

舟の帆波やより横を 復児 一所の雪にまろく交千を 扇志

あま 香すえて夢六も十三秋 嵐睡

阿州

よりとあてかたしとけい原のか山 稗

乃原まをらとを命なりを 和周 不空すゆくとあより秋の月 湖青

海一との船とを能れ比の境 松月

いり 米沢

茶のこね葉連の音のみ 秀竹

まね字 吹てあふ本は葉の時松 松一石

菊と向人氏之紙函の幕のみ 秋空

お茶の夢ともひん中の月 幸成

小膳

清き水とて春の川 芳柳

そ

五月とて又けりてつを 葦河月

柳の影もさす 清の村 有隣

嘆かむとて 東守

拍の音もさす 小坂 原翠

蓮の影もさす 乙山

是影の影もさす 下り 呼雪

の

吉井 里鶴

已とてはさす 延山

下月とて 吉井 笠考

春且

よ

二の夜 八木 繁柳

藤の影もさす 花の影 山貴

こ

そ 而 醒

高き 當屋

今月の影もさす 壽保

牛羅

如字のりて

二年ぬ

葉の影もさす 負雨

延山

あまの影もさす 大川 芦魚

竹倭

あまの影もさす 前 過改

一か

炭竈の影もさす 秋 豊東

木沢 伐柯

紙海のあつたる此物し〜んれ竹支

を物ハ納らせ〜こす多文^{口女}紀撫

移すの統と花のたつまは^{馬庭}里水

や〜もたは〜す〜も家^{熊谷}夕

夢〜れ本^今宿のゆきあま乃山至

まは〜も〜もまをれと初時^{ア子開}而貞宿

今かか〜一冠言ハ

まをま手ハ字開

乃中込送れ様不^小所^小其朝

カ抄のたゆま^今平み

〜の空のた^今ゆき〜と

日記中〜

〜と悟む

蒼蒼や

貞橘

人の〜〜〜

柿の核

云〜時〜用〜の〜

〜と蕭堂む〜

ま〜を〜を〜

秘相の〜〜

跡は〜〜火體ハ

毒〜〜

〜あれや

夢中登

笠翁

已〜年〜むの〜

ま〜を〜を〜

〜あ〜を〜

橘の子れ

全

ま〜を〜を〜

露色

ま〜を〜

四季

佐野
秋流新

おの灯乃くをさゆう一換月杜川

一掬ひ月もよふゆゑ清き水

後徒然草のいふ如く

そよよも松浦法師の歌

全

雲のたゞの梅の山晴秋の月周

梅実の積るも春夜の後の月

全

こゝろせとをきかばあてぬのま一徳

推のまや秋の月をいしてはそ

風吹くは鷹の佃子秋乃音

冬風の吹くもあつらふ大難哉

全

石流のたゞの梅の山晴秋の月周
上原岩井
貞笠

こゝろせとをきかばあてぬのま

そよよの時の手ゆゑ月をさ

并にさゆうおれとくを瑞フチ

全

子心女ハ流くたむむおゆ干は貞國

子心絶て人の形や川にゆゑ

似ては瓜にこそて後の月

夜念子役老もゆゑを流

全

吹のまを白く別まで秋の月

傘借りのまを流は秋の月

全

まはるるまを流は秋の月
石之

秋のまを流は秋の月

稲妻の流は秋の月

秋のまを流は秋の月

全

口めて喰成るは下りの如 芦邑 中より人もの花を干沼 芦管

惟子の花白れやたまふ花 惟子とやや織のやまの鹿

志高なるかゝりゆく蕃椒 圓るそに花を干沼の月

張きて懐おもをきそ花 志の香自白のまふ金法屏

全

上州下岡

伊勢ありて七十ふ飾弁 貞川 中心の香まふ花し初梅 貞陸

福嶋やまふかゝりゆく花 まふかゝりゆく花は上州の香

花を干沼おもをきそ花 一花干の秋や中よりし

暁方の麻もさ方や花 花を干沼おもをきそ花

全

花を干沼おもをきそ花 花を干沼おもをきそ花

全

暁方の麻もさ方や花 上州下岡 貞州

花を干沼おもをきそ花 花を干沼おもをきそ花

花を干沼おもをきそ花 花を干沼おもをきそ花

花を干沼おもをきそ花 花を干沼おもをきそ花

全

上州下岡

花を干沼おもをきそ花 上州下岡

全

上州下岡

美草の根油の田植

穂花のさりとてさきさきむせり

汝子へを毎てつるぬり一水

全

上州子田

拙いぬのち極やむせり芦波

ぬりぬれぬとぬりぬりぬり

秋はのさきさきぬれぬの月

さきさきぬれぬりぬりぬり

白くと咲きさき蓮の花

ぬりぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

初春のさきさきぬれぬれぬれ

全

上州子田

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

伊勢のさきさきぬれぬれぬれ

初春のさきさきぬれぬれぬれ

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

全

南見卷

後片群つて女花の山芦相

白のさきさきぬれぬれぬれ

夕の秋花の極やむせり

秋引の極やむせりぬれぬれ

全

同州

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

全

南見卷

まけに其のさきさきぬれぬれ

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

秋のさきさきぬれぬれぬれぬれ

初春のさきさきぬれぬれぬれぬれ

全

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

さきさきぬれぬれぬれぬれぬれ

世のふにまき落る月老介
志のふに勝公勝ふも一合

三物

拾花甫

まふもわきとゆとわき貞里
人のふに月ハ感もさう

玉美代行有とすも感情

全

抄秋の世を星の別色介
初ふも年より久二候ま

三物

一祖堂

いつふふとふとふとふと
初ふにふふふのふすふ
長

秋とふふふふふとふと

全

波光
波光

暮酒ハ癖ハ徹て凍りハ

水園の月を老子のまの常

全

おひれを命をいふるまの
桐船

坊の後のまの系と頼枝

おひれおまへるをわけて

全

何れもふとふとふと
月行

新酒の樽の秋を感さる

一瓶のまの酒を感れゆて

全

遠家のいふ酒ハ
松花

極のりふふのふかふまを

琴の曲に古のふとふと

全

草平下をふくむを此の爾 芦金 山海の月を初を此の月金 弘山
 於慈徳乳母う初せり
 草のふくむを初と奉りて
 此の月を初と奉りて
 草のふくむを初と奉りて

今

今

金井

草のふくむを初と奉りて 芦金 二ふくむを初と奉りて
 月を初と奉りて
 月を初と奉りて
 月を初と奉りて

今

今

草のふくむを初と奉りて 芦金 舟と傳高内の古木長 芦魚
 舟と傳高内の古木長 芦魚

草のふくむを初と奉りて

舟と傳高内の古木長

草のふくむを初と奉りて

舟と傳高内の古木長

歌儂

風志

哥仙

草のふくむを初と奉りて 芦金 友里
 草のふくむを初と奉りて 芦金 友里
 草のふくむを初と奉りて 芦金 友里
 草のふくむを初と奉りて 芦金 友里

あつらにわらふ長威の常 有佐

経路しく村の子うま 貞国

浮瑠璃も必塵より世塵の月貞屋

月貞屋に唯もそるる 芦管

善の約束も折紙の聖執筆

笑こし折紙を下され 友里

あふそり月貞屋の常事貞山

振向と右坐夜へ紙を 貞国

世もあつらふ常の一人風志

女のおもひ非の折紙 芦邑

あつらひてと取紙の常事 有佐

手紙と云書に筆を下す 友里

あつらひてと取紙の常事 常仙

折紙の紙に筆は下す 芦管

あつらひてと取紙の常事 貞屋

その時をたふすに 芦邑

柏うらむ若かりの風貞山

折もあつらふ若かり 貞国

川魚の舟をよむ常事風志

舟歌の舟の歌 常事 若 芦管

百才ある常の産物有佐

志をもあつらふと 若 友里

日やゆひも非も常事常仙村

これをもあつらふと 若 貞国

松の老懸れ折紙折紙 貞屋

折紙はにを折紙の道 芦邑

中夜に如夜を折紙の道 有佐

月おのほくを折紙の道 友里

月代おのほくを折紙の道 貞屋

夜のおのほくを折紙の道 芦管

余 園結のふを折紙の道 風志

折紙のふを折紙の道 若 芦邑

二人葡萄 土産邑 常山

大雲町 常山 貞国

南を流すは流す大の巻 貞里 貞国

先之出て観虫とてせ 有佐 貞里

津川もさひまの八波の来 貞山 貞里

櫛丁の教もさひまの流風志 彼西のむむむむむ 芦邑

ちんちん流とばさるもさひま 常仙 貞里

舟で轉紙とゆふ烟捲 貞屋 貞里

法福ふられとを何右かると 有佐 貞里

佐と併り合 常山 貞里

月の名もさひまの流風志 相の第と流風志 芦管

味とわつとふ 癖の 常山 貞里

美理とこれ流の捲り 貞屋 貞里

ふくとさひまの流 有佐 貞里

表停りの流とこれ 常山 貞里

以牙に糸の流す 常山 貞里

常山 貞里

舟高へくひまの海への常

舟ちんは舟ふんあゆむ此貞國

哥仙

哥仙

上州藤岡連

ま依の又そをかういふ葉抄り一徳松のままは入すのの月貞川

料理の伊達と病い赫藤芦翁 湖中漢で羊はるは傳自賀

浮木のる登更木抄り一徳 今百姓の葉集も儀出葉抄り自陸

南方と西ふ湖市の雲一徳 井ふを抄りのいふは自隣

馬ふんくふ海月まきまの月 ぼき抄り井雲のまの抄り自宿

舟高の波の初早と来る芦翁 湖と雲てをいふくは西湖

色うけをまんを危向ふ脇 縁をけり合傘の近あり貞笠

隣けと移る海の魂一徳 舟の網と移る漕こむ湖雲

やんくうと毒が毒の口車 傍生袋ありと料理まはら芦波

風はくする庄田の後鳥芦翁 跡いひぬはく封切ら芦穂

かきとそのかむひかむむる辰 ね藤と虎とやうか教玉の福湖穂

凡そくくとむとととと一徳 弟くく袋ひぬらてま山珠

物くくくくくくくくくくく 横たふ海月のま月條霞山

まくくくくくくくくくくく 疎くくくくくくくくくくく東川

後かとの尾、信との首、
言好の瑞藻とくく、筆を名且山

秋女の鈴、入つてを後、
口をさる、海種、金、周賀

探函の茅、勢とゆる、
浦風ふや、あねを、くむ、聖、芦、夕

秋ても同、か、か、人、心、
筆の中、う、考、れ、事、文、里

登玉の封疆、て、浦の曲、む、
ま、面、に、枝、拾、り、も、あ、り、て、
湖、遊

冬くハ、秋の、乃、く、之、も、
此、を、留、ハ、母、乃、秋、を、貞、陸

川舟のむ、一、夜、と、八、月、く、
種、物、の、物、子、種、の、種、湖、雲

巖、業、の、情、も、他、る、阜、而、
肝、も、り、は、り、一、秋、省、貞、宿

登、ん、と、必、然、の、理、を、
山、を、よ、る、を、
西、湖

量、れ、ぬ、ま、も、
飛、と、く、を、
鶴、山

世、後、の、と、を、
内、柳、の、木、
東、川

唯、接、ふ、系、の、未、
被、者、
芦、波

活、後、と、ハ、
石、巻、と、三、
周、賀

夜、子、赤、く、
身、蘇、を、
貞、川

月、空、を、
小、
貞、隣

圃、極、裏、を、
五、竹、
湖、遊

あひまこま澄せてゆく塩り

耐と知れたる以園兩

多の判をばみかきりお倉者芦翁

あゝあふ嶽をまふひある一徳

秋ふふ七つりこれ花のゆ 芦翁やて年をも繋ぎて年のもむ貞賀

運振えのてかゝ果る

哥仙

上州岩井連

哥仙

豊とまふま裏まゝも若山貞笠 阿婆の口へ入らるをわか貞鶴

お水はりの糸 糸もゆき山崎

獅子の我がの縁 南を流す夕

下をてんふこ徳まゝ海公 文理

あゝあふ嶽をまふひある一徳

あゝあふ嶽をまふひある一徳

あゝあふ嶽をまふひある一徳

怪子さつる破野の机 貞山

聆のすむま孝の巻 芦翁

丸倉羽着うゝんれ不自傷 好和味うゝんれ未服成も月かゝ貞橘

登和うゝんれ不自傷 好和味うゝんれ未服成も月かゝ貞橘

松仙 波のゆきうゝんれ未服成も月かゝ貞橘

さつ月のぬの祥きる巻 麓里川 蓋と洗はるゝもはるゝ貞雨

律のあゝ人の低心 麓里川 蓋と洗はるゝもはるゝ貞雨

貞雨

秋草の巻を流す水 淵水 杉枝とて夜のあそびある 芦翁

仕度及第此端と持せる 里水 秋子仕立て正月と持貞鶴

あゝあふ嶽をまふひある一徳

坊むく町のまきくさ吹里鶴 子あ若の持へる貞橘

松遠に本履もまき吹里自漫琴山 花の月飛所の空むれと貞玉

売け。され袖の渡ひ淵柳 飯喰まやまきを採茶貞國

かすゆく長夜ふりか月を青松仙 春の経の医者かろく採茶貞鶴

虫持ふ出で虫に辨くま好和 二階産後へまか樹まき若翁

り林と若々戸の後か減貞登 まきけりかまきま白拍の貞橘

於山陽法のゆるん八入桐翠 口を吸まてれりりて見貞國

むまき南深々と連書り里水 峰りまきま安ひまの貞貞雨

持く若り八若のまき執筆 やうひまま枝ひてうか若翁

七人^名の人の破のまきまれ書 琴山 ぶりの切ま松あもま連書貞玉

毛殺髪の色くまきく松鳥 鶯白くまきままま 貞鶴

まきくままま後うま後後ひ淵柳 うま書き女樹ま後若翁貞雨

まのま枕まのまきく横淵水 娘のまのの割鏡ま持貞橘

一間けく源ま後ま煮く里川 かま雨まの渡ま書若翁貞玉

雨とままま蓮のままま貞笠 乞食の歌りま橋のま貞國

涙まと滴くままあれり好夕 下分は菊も後りて法の貞貞鶴

文敏の子を以半の者ふかひ里水 素と爲しは色よせり 貞橘

衣木も竹もさむむの香 桐翠 百姓の徳こそよき 秋の風 芦翁

うみ草の海は衣裳乃は里川 衣揚屋の笑敷思ふ 貞雨

海の手を結結とよひきる 後ひ 里霍 衣露の星代思ひ初れ 貞玉

月のを思もねりき 取淵水 竹塵て有政あるを令 貞國

子余合名とゆきを介は借誰れ 桐翠 子乙女の一人け来る時竹ひ 貞雨

伊勢の八と平し 後 摺里霍 魁とあはくよる 林崎 貞鶴

丸茶と梅と櫻は人もま 淵柳 檀方け徳を海と寄のま 貞玉

吐上もれ後ろのまを 松仙 風の多い日只徳の石平 芦翁

豊衣にむのろくしはあうや 松鳥 来をもよほ海ぬむの國 貞國

住保姫犯や後ひ 種冊 琴山 妻城とよそ屋茶まぬ 貞橘

半哥仙 半哥仙

流て鳴葉うらな襟の影衣木春 糸ひかりぬ 腰ふた代九衣 貞菊

百姓の地ハ 吟川 物 文耕 尻かそくゆはひまきの上 芦翁

生城の海雲にふつるを馬 自里 意他り大工人 是 百千を

指りし不並河邊 彈木春 鈴くつく 終被るを危 貞菊

そゆにをさうよて月足客文耕 流ゆる月と操形は蓮門

文月雨丸に操の換ひ。貞里 香りのふとどか ちのび入 芦翁

私凡此のふ付ても姉の里文耕 悉くはの事おとを秋と知

おまにいそれぬ生のは松 貞里 けあといふお算く信くも 貞翁

心跡のそつと換ひ一語小判 木春 志しぬひのは落流と我すの

養の何ひても町も息文耕 里んぼれの耕抱ゆる 芦翁

あそに直てさうなる杜松貞里 市さる喧嘩の中は半座て

座すえく半座をも木春 長生坊、まゝまゝ人へか 貞翁

よりかき壁いそまろくまの左貞里 松林の尻に月を流花と

すゆをれとくしよい八相文耕 河橋喜次彌の合さる 芦翁

母子産病とすてお若の産木春 若淡り推れ敷く秋のこれ 貞翁

教目よ辨心自を旅の袖貞里 赤のぬと門光等。智恵

月歌にが表の鏡、おをー木春 宿小柳の尾も巻老の巻髪 芦翁

悪の持小柳一つをさく文耕 こそつづぬよはてまもお捨

半哥仙

半哥仙

熊笹も水等とさうぬ六月の 芦泰 比の巻鼓てる 藤吹る 虎山

ちと申とてまゝく 瑞福芦翁

沙つてりし市の文書 柳翁

箕ふんする後をよ 史記 芦泰

ニケ月小を今よりき 小盡

相棋の室 吟秋の 際 柳 芦翁

殿しとのりやと 修 村 柳 東

あまの御衣 深 へ への 鹿

あまの御衣とつら 衣 芦 泰

柳の子を 撫み 杖 貞山

月もよそ 大 盡に まゝ 柳 芦 舟

靴のよまのまゝ 柳 合 錦 山

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳 柳 圓 山

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳 柳 圓 山

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳 柳 圓 山

竹 輿 と とも とも 鹿 山

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳 柳 圓 山

まじりたる 瑞の 鹿

あまの御衣 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

あゝ 柳 史 記 の 揚 子 柳

山藁の足さやうの陸電芦翁

あつたそのの影い山門圓山

半哥仙

半哥仙

福井の職物ぞうや杜の圓山
右天今世の源をほほの密栄松

朔の影小磯の虫下貞山
か海をいけ陸電うれ芦翁

判刀の紙子まくと吸付天貞賀
悦の影山は横うう系園ぞ

揮除仕蕨の葉なるの葉桃里
夢の影一村井の植栄松

平團月に床子もまれば虎山
すううう一梅満て葉は葉

梅枝蔭て目覚めううの貞雨
白に丸に秋と下たの葉松芦翁

神風お砂のまじき塩もする貞山
遠とまじ絶すまれば葉はる

傘うう傘、結の宿の久圓山
細葉の雲ハとの指栄松

白くある田舎の女産屋を桃里
あまの影は美ぬううのやう

白くある山代もまらぬ貞賀
お南切つてかき又原小苦翁

おう月の表刺めハ有る山貞雨
梅の影はと秋雲の油の影と

双と影るまきりする小虎山
鳥の影は飛衝まじり栄松

交りおまの雪はううの貞賀
あまの影は美ぬのまじり

吹する雪まじり小虎山 桃里
若と建あそ月とまじり 芦翁

陸の巻りたるて目く鳥る 鹿山 井

右邊へ小折足了と云ふ 貞雨 知光の若く雲は飲冷柴松

芝草竹時、のあとかりて 圓山 所車二枚あまふむむの山 芦翁

地の菊につくむ末於貞山 これも福妻の種のもま 柴松

半哥仙

夕阿政

懸道は暮の雨、丸をみ米成 百姓の夕飯時と月をみ 妻勇

わく膝きさるる松の風

風のゆるりれば子持並

霧の風くし、雨、古もさるく

子持さるれりふに物とよて

半哥仙

林氏

ちりちりのまに脂さるく

壺唄の始まる人の六拍

かゝると木をて瓦鏡、后の深

きりぬきまのり後の難さあて

かす牡丹は花の、のる

桐もよるまに竹と雲を回

遠れる我ふはくや後る、

梨園の内のもまを舞うて

ゆくとまよ、川舟を舟

乳母にみ、のもま松の表

粒沙の枝布か、も固折弁

断、いの後、てんき、鏡の箱

為袖と云く、縁、折、折、

懸ぬ若草、不意、を仕懸る

蝶を折む、芝菜のま、

大木と云、く、桐、ふ、氣、の、門

所の巻のりうらそて目らぬる 虎山 井を始う水筋をまら筆のあ

を盗くふおひくくはたか 貞雨 和えのあそく筆は飲喰 栄松

芝草好時るのあしかりそ 圓山 所車く一校あまらるむの山 芒芦翁

世の角にうらむし系は貞山 こんも福寿の持のうら系 栄松

まの事なりあつてめらぬ

本陣は江戸の東の山崎の村

もろくもかまらざる合流のり

派は橋小枝で藤む月

味香と真中へ振るひ

新軍は林の向ふに居り

あつた白くもろくも入

半哥仙

まの事なりあつてめらぬ

物難小判とて是てまのり

辰松田は味合結やう

動向は金やまふかたりに

着目と到り北美入りの

月右の時もまのり結やう

小判をふりまのりかたりに

半哥仙

初居の糞は隔る名ゆの海 本原氏 貞州

月夜が松

さうさうに語り着ふり着て

むきまむ人の旅さうさ

本九十八町の暮のそ

鹽にすのりまのり

むき控てまのり

入てまのり

芥よりいさるまのり 上州小幡 貞州

花とまのり板の交り貞山

向手押控ふか控へん貞洲

山と紙はまのり所は貞門

堂よりまのりもまのり

まのり後(函)る嵐火丹雲

大園の青中鼓は貞のり 貞門

まのり下とまのり 貞

内田出たて盛て入おすしん
 予か一茶飯の常
 八香ハ茶後にもく左の
 下下の蕃の初香
 神風とくしきりの松の風
 夢もくうまきけと伝
 まらねてまはれぬと煉乳製
 夢て下る階芽生の宿

釣りのそねもふをる香
 云向の獅子の座にありつ
 中飛車に打てまれば藤と肥
 法下れ兼守じきれとま
 ぬくく山の夏の末はあ
 一抄ふえんきとめと焚の声
 品川とまへの碑 研

華文池は茶朝光を克貞屋桶のちちも袖の投合

袖を 物滅えうとする貞山

冥男うつと髪の下あふ

半哥仙

上及山名
物水堂蓮

浮水濁る特の数もあふ 芦橋

首尾

葉さすそよ代の浮は泥を 菊要 藤葉で枕淋三示
 引付のそく 漱香 帆のそく 水荷 ちと八粒を物取園のた 芦菊

葉とふあかしくく 水巴 瀧の海草れ打し 杉く

二重きく若はかぬ 月 秋水 延 此六はくまと海と棋の舎 卧牛

舞の字のまわりのけ原洪柿貞至 一 殆巻て来る。終末の巻末

晴枝和急の舞のあつたる 昔翁 秋さひ 以述懐も生れかき

あふとむかひ舟の難航をれて 貞屋 下ぬの舟船導りぬける

猿子も鏡のあつて 西附湖舟 田原へあつたけより 帆を

名等にむかひの流の理を法し 芦翁 舟信文八のまゝと吐出る

うれ風を命あつたれ 貞良 一 かねて半町斗花 墨

先傳へ蘇て後傳とへかゝる 湖松 答の稿も口入りの門

多代筆代に彼の痛辨 貞屋

四季

星川

秋夏の秋の句

空をゆく霞にじせる 秋松 貞至 一 了よくうらまに授て 巻末 貞山

霜をくけてゆきゆく 雲の峰

落葉や初氷の初秋の夜

と食らうと今初秋の秋時雨

亦

初秋の心や初秋の心 貞賀 又晴や夜半のうらけや

秋葉の初霜と初秋の心

秋葉や十二の月の初秋の心

半代筆代

引の 後撰

月や初秋の心は初秋の心

落葉や初秋の心は初秋の心

空に初秋の心は初秋の心

おてさしはれり家のつと務場
仲や風入にふさるる時くら

はかばかといふも一物御をせ

そに人多利く初事か貞屋
船やさうとと信控

取仙の家のつとにねえれ

奉納

喜ふと云はれぬはれぬ



于時安政三丙辰秋八月再刻

萬笈堂

英大助原板

東都書房

馬喰町三丁目

森屋治兵衛板

